大雪山国立公園連絡協議会登山道維持管理部会（第11回）
表大雪地域/東大雪地域合同会議

日時　令和8年6月12日（金）10:00～
場所　上川町役場大会議室・Web会議システム併用

次　第

1. 開会
2. 議事
（1）審議事項
　1）登山道等の協働型管理の進め方について
　2）山岳トイレ等に関する検討課題の整理
　3）登山道維持管理作業計画・報告について
（2）報告事項
　1）大雪山登山に係るヒグマ情報収集・提供について（環境省）
　2）登山道等利用者数10年の傾向（環境省）
　3）紙のトイレマップからQRコード電子トイレマップへ（山のトイレを考える会）
3. その他
4. 閉　会

大雪山国立公園連絡協議会登山道維持管理部会(第11回)
表大雪地域/東大雪地域合同会議

配布資料

- 出席者名簿
- 資料1-1　大雪山国立公園ビジョンの実現に向けた取組み(登山道関係)
- 資料1-2　登山道に関する計画作成及び評価体制の検討
- 資料1-3　情報発信事業について
- 資料2　山岳トイレ等に関する検討課題の整理
- 資料3　登山道維持管理作業計画・報告について
- 資料4　大雪山登山に係るヒグマ情報収集・提供について　(環境省)
- 資料5　大雪山国立公園登山道等利用者数10年の傾向　(環境省)
- 資料6　紙のトイレマップからQRコード電子トイレマップへ　(山のトイレを考える会)

- 参考資料1　大雪山国立公園連絡協議会表大雪地域登山道維持管理部会及び東大雪地域登山道維持管理部会規約
- 参考資料2　大雪山国立公園における山岳トイレの配慮事項

大雪山国立公園連絡協議会登山道維持管理部会（第11回）
表大雪地域/東大雪地域合同会議

出席者名簿

分野	構成員	役職・氏名	備考
関係行政機関	上川中部森林管理署	森林技術指導官　北野　公一 地域統括森林官　秋元　郁弥 総括森林整備官　加藤　和宏	会場
	上川南部森林管理署	総括事務管理官　岩館　正宣 森林情報管理官（管理）　内藤　朝子 総務グループ主事　上田　耕輝	web
	十勝西部森林管理署 東大雪支署	事務管理官　玉川　知弥 主事　坂本　奈未	web
	北海道上川総合振興局	保健環境部環境生活課 主査（山岳環境）　中島　浩之	会場
	北海道十勝総合振興局	保健環境部環境生活課 自然環境係長　滝下　麻耶 主任　鹿瀬　祥平 主事　道下　翔	web
	富良野市	欠席	－
	上川町	欠席	－
	東川町	欠席	－
	美瑛町	商工観光交流課主事　高橋　翔眞	web
	上富良野町	商工観光課観光班主事　原　竹矢	web
	南富良野町	欠席	－
	士幌町	欠席	－

分野	構成員	役職・氏名	備考
関係行政機関	上士幌町	主査（ひがし大雪自然館）　松岡　佑昌	web
	鹿追町	欠席	－
	新得町	欠席	－
維持管理関係団体 利用・環境教育関係団体	Asahidake Trail Keeper	代表　藤　このみ	web
	NPO法人かむい	代表理事　濱田　耕二	会場
	NPO法人大雪山自然学校	旭岳自然保全員　廣瀬　さつき	web
	道央地区勤労者山岳連盟	副理事長兼自然保護委員長　伊吹　省道	web
	合同会社北海道山岳整備／一般社団法人大雪山・山守隊	合同会社北海道山岳整備 代表社員　岡崎　哲三 一般社団法人大雪山・山守隊 事務局長　下條　典子	会場 web
	山樂舎BEAR/層雲峡ビジターセンター	代表/インタープリター　佐久間　弘	会場
	大雪山倶楽部	所属ガイド　西元　徹	web
	大雪山国立公園パークボランティア連絡会	会長　垣内　雅人	会場
	TREE LIFE	欠席	－
	富良野山岳会	欠席	－

大雪山国立公園連絡協議会登山道維持管理部会（第11回）
表大雪地域/東大雪地域合同会議

出席者名簿

分野	構成員	役職・氏名	備考
維持管理関係団体 利用・環境教育関係団体	北海道山岳ガイド協会（表大雪地区）	欠席	－
	NPO法人ひがし大雪自然ガイドセンター	欠席	－
	新得山岳会	会長　樋口　信司 事務局長　冨山　幸朗	会場
	十勝山岳連盟	会長　齊藤　邦明	会場
自然保護団体	大雪と石狩の自然を守る会	欠席	－
	山のトイレを考える会	代表　小枝　正人 事務局長　仲俣　善雄	web
調査・研究関係	山岳レクリエーション管理研究会	事務局長　山口　和男	会場
	北海道大学　渡辺　悌二名誉教授	名誉教授　渡辺　悌二	会場
	北海道大学大学院農学研究院　愛甲　哲也教授	教授　愛甲　哲也	web
	福山市立大学都市経営学部都市経営学科　澤田　結基教授	教授　澤田　結基	web

【その他】

分野	構成員	役職・氏名	備考
	NPO法人悠久の森	理事長　細田　直之	会場

【事務局】

所属		役職・氏名
環境省	大雪山国立公園管理事務所	所長　岡島　一徳 国立公園利用企画官　高橋　広子 国立公園管理官　友野　雄己 係員　三石　隼斗 登山道保全調整等専門員　村田　奈都希 自然保護官補佐　坂井　まお 自然保護官補佐　永瀬　大悦
	東川管理官事務所	国立公園管理官　菅野　敬雅 係員　鵜野　光太郎 自然保護官補佐　渡邉　あゆみ
	上士幌管理官事務所	国立公園管理官　永田　拳吾 自然保護官補佐　上村　哲也

資料1-1

赤字：今年度の主な取組実施箇所
青字：前回部会時からの主な加筆修正箇所（赤字部分を除く）

○大雪山国立公園ビジョンの実現に向けた取組み（登山道関係）

大雪山ビジョン	取組事項	主な取組項目	課題	当面の取組方針等（案）~~~~	目標・指標・進捗状況確認方法（案）~~~~
(1)大雪山の自然環境が守られ、より豊かになった国立公園⇒大雪山グレードに応じた保全 登山道の荒廃や登山者の踏み荒らしにより改変、消失した植生、地形や土壌の改変・消失を回復させます。これらは、大雪山グレードに応じて原生的な自然環境が維持された地域から優先的に取り組みます。（中略）これらにより、広大な原生的山岳景観、火山を基盤として広大さを形作る特徴的な地形と、その上に大規模に広がる生物多様性が守られた国立公園を目指します。	**①登山道等計画の検討及び実施**	○登山道/野営指定地単位の計画	○登山道ごとの課題整理、保全計画や管理方針が十分になく（野営指定地についても同様）、対処療法型の登山道補修に留まっている。 ○必要に応じて登山道や野営指定地そのものの配置の見直しも必要。 ○管理水準の改定から10年以上が経過しており、グレードや保全対策ランクの要更新箇所あり。	○「登山道の管理状況」「野営指定地・避難小屋等の管理状況」資料を用いた区間・地点ごとの課題整理、認識共有、計画の進捗状況を評価する仕組みを検討。 【登山道部会、2025～】 ○特定の区間を選定した集中的な保全計画・管理方針の検討。必要に応じて管理水準の見直しを実施。 【登山道部会・各管理者等、2026～】 ○事業執行者の配置の見直し、登山道未執行区間の解消など、~~整備・維持管理を行う路線・区間の~~メリハリをつけた全体の配置計画（野営指定地を含む）の検討。 【登山道部会・行政機関、2026～】 ○登山道等の利用・管理方針や配置計画からなる全体計画（＝登山道ビジョン？）の構想の検討。主要関係者による集中的な議論を実施~~（上記取組みを踏まえながら検討。）~~。 【登山道部会、2026～】	【目標】 ○部会において、各管理者から計画の作成状況、各路線ごとの管理の進捗状況を報告 ○「登山道ビジョン」の構想（策定あるいは大雪山ビジョンへの反映）（5年以内） ○公園計画・管理運営計画改定（10年以内） 【指標】 ○計画作成数/計画路線数 （2025年：0/41路線。3区間程度で計画案を作成中） ○公園事業執行路線数/公園計画路線数 （2025年：20/41路線）
大雪山グレードに応じた登山道の管理により登山道の荒廃が解消され、周辺自然環境に調和した案内板、誘導標識等が整備され、野営指定地や避難小屋においては施設の更新と管理が行き届いた状態を目指します。		○全体の配置計画 ○管理者の再配置及び明確化	○平成30年頃に作成されたグランドトラバース構想（縦走線を中心とした歩道事業執行者の再配置）の実現に向けた進め方が十分に整理されていない。 ○未執行路線の執行化は、三段山線以降は進んでいない。 ○執行化の意義を明確化する必要。		
		○基盤的整備及び順応的管理	○整備工事での、入札不調等による年単位での計画遅延、受注者不足、金額の高騰 ○公共工事での整備及び維持管理の発注方式が、登山道の順応的管理に適さない ○管理者での維持管理予算・人員不足 ○技術指針の改定から10年以上が経過しており、必要に応じて見直しが必要。		
	②施工技術水準の向上等の検討	○補修結果の評価・検証 ○補修技術の向上	○登山道補修技術検討会の役割、歩道等維持管理実施手順マニュアルの意義について確認しつつ進める必要あり ○人材育成とセットで考える必要あり	~~○登山道補修技術検討会~~ ~~【事務局、年1回開催】~~ ○計画・方針とそれに基づく補修作業に対する評価検証実施体制の構築検討 【補修技術検討会・環境省、2026～】	~~○部会において登山道補修技術検討会の評価内容を報告~~ ~~○指標案：データベース運用実績~~ ~~（令和7年度：DB登録数0件）~~ 【目標】 ○評価検証体制の構築及び運用開始（3年以内） ○データベースの構築及び運用開始（10年以内）
		○登山道等情報の共有・活用	○大連協HPに掲載している登山道維持管理データベースの目的や内容、それらに必要な記録方法等を要再整理	○マニュアルを修正し、各管理者等による補修等作業の予定や結果の情報共有を促進 ○登山道に関するデータベースについては、基本的な目的や方針、内容から検討を行う 【登山道部会・補修技術検討会ほか、2026～】	
携帯トイレの普及、携帯トイレ関係設備の充実、既存の常設トイレの効果的な利用などにより、野外へのし尿排出をなくし、し尿の問題を解決します。	**③山岳トイレ等の検討**	○山岳トイレ施設の維持・改善 ○携帯トイレ普及推進	※「山岳トイレ等に関する検討課題の整理」を参照	※「山岳トイレ等に関する検討課題の整理」を参照	○「山岳トイレ等に関する検討課題の整理」について登山道部会で進捗状況を確認
(3)つながっていく国立公園　⇒来訪者に向けた情報発信、大雪山国立公園に関わるすべての人々に向けた価値の発信 旅行や登山の準備段階において、大雪山国立公園に入ってから出るまでの間に必要な情報についてインターネット等を通じて、わかりやすく得られる状態を目指します。	**④一元的な道情報発信**	○ホームページ、SNS等での情報発信	○大連協ホームページは利用者向け情報発信と主に関係者向け情報共有の両方を兼ねた状態となっているが、少なくとも大雪山NPに係る利用者向けポータルサイトは現状存在しない（登山道以外の取組全般を含む） ○大連協ホームページの利用者の利便性向上（UI/UXの向上） ○利用者の情報収集に関するニーズ把握、利用者のアクセス状況の分析ができていない。 ○国立公園全体の利用者向け情報発信については、各地域の観光情報発信等との連携を要考慮	○大連協HPの段階的なリニューアルの検討 【事務局、2025～】 ○大連協SNSでの適時の情報発信 【事務局、実施中】	【指標】 ○インスタ閲覧数 （2025.6.1～10.15：19.6万人） （2024.6.1～10.15：2.5万人） ○インスタフォロワー数 （2025.12月：1024人） ○フェイスブック閲覧数 （2025.6.1～10.15：63万） （2024.6.1～10.15：7.6万） ○フェイスブックフォロワー数 （2025.12月：5694人）
また、各利用拠点を中心としてネットワークを形成し、質の高い利用体験がいつ、どこで、又はどの施設にコンタクトを取ればできるかという情報が発信できる状態を目指します。		○関係者間のネットワークの構築 ○ホームページのポータルサイトの機能強化			
旅行者や登山者が実際に大雪山国立公園に来訪した際には、各施設等で必要な情報に接することができ、求める情報にアクセスしやすいよう、窓口や案内板やサインの表記が充実した状況を目指します。		○窓口や案内板やサインの表記の充実化	○標識類等のデザイン統一化、基本情報の共通化	○まずは歩道事業執行路線における大雪山国立公園内の標識類の状況の把握を行う。 【事務局、2026～】	○標識類の整備状況 （指標設定は要検討）
増加する外国人利用者に対しても、必要な情報が多言語で発信されることを目指します。		○多言語での情報発信	○多言語での情報発信	○大連協ホームページ、SNSほか各ウェブコンテンツの多言語表記化や情報整理 【事務局、実施中】	【指標】 ○大連協HP閲覧数（△年：海外2077全体の8%） ○指標案：SNSフォロワー数 △年：海外FB700（全体の12%） IGM99（全体の10%）
情報発信を充実させることにより、利用者の満足度の向上だけでなく、山岳地域においては、遭難の減少や安全確保が実現します。		○安全確保（遭難、ヒグマ等）に関する情報発信	~~○大雪山グレードの確認や危険の認識を促し、自己責任で力量にあった登山の推奨~~ ○登山者が自ら~~登山~~情報を積極的に情報収集し、遭難防止対策の実施（登山届の提出等）や安全確保に努め、~~自己の力量に合った登山を行う~~よう普及啓発の~~さらなる推進~~が必要 ○~~上記普及啓発に向けて、~~ヒグマの危険個体の出没といった重要情報を速やかに地域間共有、発信できるようなネットワーク化も必要 ~~○公園利用者の安全確保のため、国立公園の登山情報として~~必要に応じ火山関係情報（熱水や有毒ガス地帯等危険箇所等）~~の~~情報発信が必要。	○ヒグマ情報の収集、提供のネットワーク化に関し、山岳全域での関係者間の連絡体制を構築。 一元的な情報収集・提供を試行段階から開始する。 【環境省、2024～2026】	【目標】 今シーズンの運用状況や結果に基づき、シーズン後に改めて設定。
大雪山国立公園の持つ優れた価値、荒廃や低迷を食い止め課題を解決するための取組、目指す姿が実現した状態を、大雪山国立公園に関わるすべての人々に発信するとともに、日本国内さらには世界に発信し続けることで、大雪山国立公園の価値が理解され、共有された状態を目指します。 　これにより、大雪山国立公園が地域の誇りとなるばかりでなく、世界の人々を魅了し何度でも訪れてみたいと思う国立公園を目指します。		○大雪山国立公園の持つ優れた価値の情報発信 ○各保全の取組、保全ルール等の情報発信 ○大雪山フォーラムの開催	○協力金・クラウドファンディング等の情報発信 ○「取組成果の蓄積・評価」「より効果的な情報発信方法の検討」についてはいずれも具体的な方針を考える必要。 ○登山道の特徴・魅力、荒廃状況、保全取組状況等が伝わるよう登山道のブランディングをすることによる情報発信。	○大雪山国立公園連絡協議会のHPで基礎的な情報を整理し、SNSを中心に適時適切に情報を発信 【事務局、実施中】 ~~○フォーラムの開催（年1回）~~ ~~【大連協、実施中】~~	○認知度、理解度 （指標設定及び調査手法は要検討）
(4)みんなが協働して管理運営する国立公園　⇒協働型管理体制の維持、管理運営への利用者の参加・周辺地域との連携、みんなが学び成長し将来世代へ引き継ぐ国立公園 国立公園に関わる多様な立場の機関、団体が参画する協働型の管理運営体制を維持し、大雪山国立公園の目指す姿を実現する取組を進めます。 なお、私たちは、地域、観光、産業の振興、自然保護などそれぞれ立場や目的が異なる団体で構成されていますが、大雪山国立公園のために自分たちができること、貢献できることを考えて実施します。また、大雪山国立公園を通じて地域社会の課題解決にも寄与していきます。	**⑤総合型協議会の構築と維持**	○総合型協議会の構築と維持 ○国立公園の一元的な管理運営体制の構築 ○調査・研究の推進、研究成果のフィードバックとデータの活用	○行動計画の策定 ○大雪山の山岳管理を民間側で一元的に担うことのできる体制の構築	○大雪山ビジョン全体の進捗の確認・評価は総会において行えるよう仕組みを検討 【大連協、2026～】 ○~~財団についての役割、組織等の検討を進め~~、行政機関側で必要な支援、調整についても検討を進める。 【登山道部会】	【目標】 ○協議会・登山道部会での進捗確認・評価体制確立（1～3年） ○財団の設立（1～3年）
大雪山国立公園ビジョンは、大雪山国立公園の利用者、関係するあらゆる人々（みんな）と共有し、浸透させます。そして、みんなで目指す姿を実現するための取組を実施します。具体的には、大雪山国立公園の管理運営に参加・協力したい人がお金や労力を提供できる仕組みが整った状態を目指します。	**⑥協力金の拡充**	○大雪山国立公園全体における保全の仕組みづくり ○様々な主体の新たな賛同者・支援の獲得 ○登山道管理者と利用者等の協働による維持管理	○受益者負担の仕組の必要性自体は理解や認識共有が進み、協力金の収受・活用が一部地域で開始されているが、規模的・範囲的に未だ十分とは言えない。 ○大雪山国立公園全体として寄附を受けられる場合の適当な受け皿が現状ない。	○白雲・忠別の施設再整備と併せた維持管理及び協力金収受体制の検討 【環境省・北海道・上川町、2025～】	【目標】 ○白雲・忠別の施設再整備及び管理体制確立（5年以内） 【指標】 ○協力金実施件数？金額？
大雪山国立公園を取り巻く自然的、社会的環境は今後も急速に変化していくことが予想されます。今後の変化に柔軟に対応しながら目指す姿を実現していくためには、みんなが学び、成長していくことが重要です。 　大雪山国立公園ビジョンを実現するために必要な具体的な取組を実現できる人材を育成する観点から、学びを支援する体制が整った状態を目指します。 　みんなで、これらの目指す姿が実現した国立公園を、後世まで地域の宝として守り続け、将来世代に引き継いでいきます。	**⑦人材育成**	○登山道補修技術者の人材育成支援	○各取組は継続して行われているが、技術者育成は個人・団体レベルの両方で成果を挙げられている段階には至っていない。	○勉強会（リーダー育成研修会）の開催（年1回） 【事務局・北海道、実施中】 ※その他要検討	※要検討

＜別紙1＞大雪山国立公園における登山道の管理状況

橙色：事業執行者/管理者あり　白色：歩道事業執行者/管理者なし　灰色：供用予定なし/計画のみ

2026年6月現在

地域	番号	路線名	区間	公園計画書(H31.3) －整備方針	管理運営計画書(R6.4) －公園事業取扱方針（一部省略あり）	グレード(利用体験ランク)	保全対策ランク	植生の状況	荒廃、整備の状況	利用者数、利用状況	公園事業執行	維持管理、補修等	課題整理	今後の利用目標	今後の管理方針
北大雪	2	層雲峡ニセイカウシュッペ山線	ニセイカウシュッペ山登山口～(ア)	ニセイカウシュッペ山への登山道として整備する	層雲峡集団施設地区からニセイカウシュッペ山頂を経由し清川を結ぶ登山道として整備する。当該路線から大雪山連峰が望できる登山道として利用者が多い。 整備、補修、維持管理に当たっては、自然環境の保全に留意することとし、登山利用者の事故防止、高山植物保護及び侵食防止のため必要最小限とする。荒廃区間の改良に当たっては、沿線の自然の改変を原則避ける。 過去の歩道跡がなくなり自然状態に復しているため、当該区間の整備に当たっては、自然環境の保全の観点から整備方法等について検討する。	G3	D(2/3)	針葉樹林、ダケカンバ林、チシマザサ群落	小規模の侵食、徐々に進行 未整備		－	民間団体によるササ刈り	歩道維持には定期的なササ刈りが必要		
			(ア)～ニセイカウシュッペ山頂				C(1/3)	ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落あり	中～小規模の侵食、徐々に進行 未整備		－		歩道維持には定期的なササ刈りが必要		
			層雲峡園地登山口付近			G3(点線)	A(2/1)	針葉樹林	大～中規模の侵食、著しく進行 未整備		－				
			層雲峡園地登山口付近～朝陽山				D	針葉樹林、針広混交林、ダケカンバ林、チシマザサ群落	侵食はない、ヤブ化、倒木あり 未整備、一部区間通行止め		－		歩道維持には定期的なササ刈りが必要		
			朝陽山～登山道合流地点			－	－	－	－	－	－	－	供用予定なし、利用なし	－	整備予定なし
	－	－	パノラマ台分岐～パノラマ台	－	－	非適用	非適用	針葉樹林	パノラマ台周辺に危険個所あり、閉鎖予定　未整備		－				
	4	層雲峡銀河流星ノ滝線		銀河流星ノ滝への探勝歩道として整備する。	整備に当たっては沿線の自然改変を極力避ける。	－	－	－	－	－	－	－	計画のみ、歩道なし	－	整備予定なし
	－	銀河流星ノ滝園地	銀河流星ノ滝園地駐車場～双瀑台分岐	銀河流星ノ滝の展望、休憩のための園地として整備する。また、駐車場から双瀑台までの園路をあわせて整備する。	当該園地の恵まれた環境をより有効に活用するため、利用状況に応じて既存施設等の再整備を検討する。なお、施設の整備に当たっては、対岸の景観眺望を十分確保するよう留意するものとする。	G1	D(2/4)	針葉樹林	侵食はない 駐車場等を含む園地整備、状態良好		北海道			改修工事予定（2026～）
			双瀑台入口～双瀑台			－	－	－	－		林野庁				
	5	紅葉谷線	紅葉谷入口～紅葉滝	紅葉谷への探勝歩道として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては沿線の自然改変を極力避ける。	G1	D(2/4)	針葉樹林	侵食はない 未整備、管理された良好な道		上川町	登山口周辺の冠水対策（集水桝土砂抜き）			
	3	層雲峡勇駒別線	黒岳林道口～層雲峡5合目RW駅舎付近	黒岳及び旭岳への幹線登山道並びにお鉢回りの登山道として整備する。	幹線登山道として、案内板、指導標、誘導柵等が整備されている。建替え及び改良が行われているが、老朽化及び荒廃が進んでいる。一部には、植生保護のため木道等が整備されており、利用者の事故防止、湿原植物の保護のため、補修等を実施する。	G2	D(2/4)	針葉樹林、人工林	中～小規模の侵食、概ね安定 未整備		北海道				
			黒岳5号目付近～黒岳7合目付近			G2	D(2/4)	チシマザサ群落	小規模の侵食、概ね安定 未整備		北海道				
			黒岳7合目付近～見晴らし台			－	－	－	－		りんゆう観光				
			黒岳5合目付近～見晴らし台			－	－	－	－		－		計画のみ、歩道なし		
			黒岳7合目付近～黒岳山頂			G2	C(1/4)	チシマザサ群落、保全が必要な雪田群落・風衝地群落あり	小規模の侵食、概ね安定 土留整備済、周囲に小規模な侵食あり、利用者が多く頻繁に補修必要	入山者数38,000（7合目登山口、2025）	北海道				
			黒岳山頂～黒岳石室分岐			G3	C(1/4)	ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落・雪田群落あり	小規模の侵食、概ね安定 石ステップ等あり、概ね良好						
			黒岳石室分岐～北海沢北側渡渉点				B(1/2)	ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落あり	大～小規模の侵食、徐々に進行 土留整備、小規模な侵食あるが概ね良好			イベントによる補修（赤石川北側斜面）			
			北海沢北側渡渉点～(ア)				C(1/4)		問題ない道、雪渓が遅くまで残る 未整備						
			(ア)～北海岳中腹（急登部）			G4	A(1/1)	ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落・風衝地群落あり	大～小規模な侵食あり、著しく進行 未整備		北海道				
			(イ)～北海岳分岐～(ウ)				C(1/3)	保全が必要な風衝地群落あり	小規模の侵食、徐々に進行　未整備						
			(ウ)～間宮分岐				C(1/4)		問題のない道　未整備						
			黒岳石室分岐～お鉢平展望台			G3	B(1/2)	ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落・雪田群落あり	大～小規模の侵食、徐々に進行 土留等整備、周囲に小規模な侵食あり、老朽化		北海道	イベントによる補修（雲ノ平）			
			お鉢平展望台～北鎮分岐												
			北鎮分岐～中岳分岐			G4	C(1/4)	保全が必要な風衝地群落・高山砂礫地あり	小規模の侵食、概ね安定 未整備						
			中岳分岐～(ウ)				C(1/3)	保全が必要な風衝地群落あり	大～中規模の侵食、概ね安定 土留等整備済(H24)、概ね良好		環境省	・点検、維持管理、モニタリング（毎年） ・補修（2025年）			
			(ウ)～間宮分岐				C(1/4)		問題のない道　未整備						
			間宮分岐～裏旭から間宮分岐へのアプローチ点			G4	C(1/4)	保全が必要な風衝地群落・高山砂礫地あり	小規模の侵食、概ね安定 未整備						
			裏旭から間宮分岐へのアプローチ点～旭岳山頂				A(1/1)	保全が必要な雪田群落・風衝地群落・高山砂礫地あり	大～小規模の侵食、著しく進行 未整備		北海道				
			旭岳山頂～姿見の池園地			G3	C(1/3)	保全が必要な高山砂礫地あり	小規模の侵食（登山道からの流出土砂が姿見の池に堆積）、徐々に進行　未整備	入山者数32,000（姿見の池園地付近、2025）					
			姿見の池園地～勇駒別園地			G2	B(1/2)	保全が必要な雪田群落・高層湿原あり	小規模の侵食、徐々に進行 木道土留整備、木道老朽化		北海道	・木道補修、点検（天女が原登山道）			
－	－	黒岳石室～桂月岳	－	－	－	G3	C(2/2)	ハイマツ群落	大～小規模の侵食、徐々に進行 未整備		－				
6	雲井ヶ原線	雲井ヶ原入口～雲井ヶ原湿原	雲井ヶ原湿原への探勝歩道として整備する。	自然環境の保全に留意することとし、登山利用者の事故防止、高山植物保護及び侵食防止のため必要に応じて保全対策を行う。湿原部分には、木道の整備を適切に行い、湿原植物の保護を図る。	非適用	非適用	針葉樹林、保全が必要な高層湿原あり	小規模の侵食、概ね安定 木道整備済み、老朽化著しい		未執行（上川町が歩道敷地を借地）	ササ刈り、木道補修			
8	松仙園線	愛山渓温泉登山口～松仙園登山口	沼ノ平湿原への探勝歩道として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては、沿線の自然の改変を極力避け、湿原部分は木道の整備を適切に行い湿原植物の保護を図る。 登山者がぬかるみを避けて登山道周辺の植物を踏みつけないよう登山道からの排水、簡易木道の設置等の維持管理をきめ細やかに行う。 「松仙園地区適正利用推進計画」（平成29年2月、北海道地方環境事務所）に基づき定められた利用ルールを遵守するよう指導する。	非適用	非適用	針葉樹林			未執行	安足間林道	林道として管理、歩道利用あり		
			松仙園登山口～松仙園分岐～八島分岐			非適用 ※R2～供用再開後、G4	非適用	針葉樹林、チシマザサ群落、保全が必要な高層湿原あり	小規模の侵食、植生回復しヤブ化 現在通行止め	・入山者数600（松仙園登山口、2025） ・利用適正推進計画に基づく利用方針、ルール設定	環境省	環境省：整備・改修、ルート開閉、モニタリング 上川町：協定に基づく管理者。巡視、ササ刈り 北海道：上川町の巡視を支援	・洗掘が進行し、対策が必要な箇所あり（主に松仙園登山口～松仙園分岐間） ・泥濘箇所の対策（松仙園分岐付近～八島分岐間、現状は飛木道設置で対応） ・年間数百人の利用に留まり、利用圧は高くない。利用ルールの見直し（ex. 開放日の前倒し・延長、松仙園～八島分岐間の往復利用）も検討の余地あり		・中期的な補修計画の検討 ・利用方針の点検
7	愛山渓北鎮岳線	愛山渓温泉登山口～三十三曲分岐	北鎮岳への登山道として整備する。	登山利用者の事故防止、高山植物保護及び侵食防止のため、補修等を実施する。また、安全性の確保のため、必要に応じて一部の区間を閉鎖する等の措置を講じる。	G2	D(2/4)	針広混交林、ダケカンバ林	小規模の侵食、概ね安定 石組、土留、木道等整備済み、周囲に小規模な侵食あるが概ね良好	入山者数1,700（登山口、2025） →登山口と同程度	北海道		渡渉箇所の木橋の維持		・引き続き、既存登山道施設を点検、補修、更新しつつ必要に応じて追加する形での登山道維持を行う ・沼ノ平姿見の池線と一体的な管理
			三十三曲分岐～沼ノ平分岐								環境省	点検、維持管理、必要箇所の補修・ササ刈り	登山道上の排水・導水機能を維持するための、こまめな施設管理と補修が必要		
			三十三曲坂分岐～滝の上分岐			G3	D(2/4)	針広混交林	小規模の侵食、概ね安定 石組、木道等整備済み、状態良好	－	北海道	－	事故により通行止め、再開予定なし		
			沼ノ平分岐～滝の上分岐～標高1600m付近			G3	C(2/2)	ハイマツ群落、チシマザサ群落	中～小規模の侵食、徐々に進行 土留整備（一部）、概ね良好		北海道	ササ刈り（PV活動、2021～）			
			標高1600m付近～銀明水						大～小規模の侵食、徐々に進行 未整備						
			銀明水～永山岳				C(1/3)	ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落・雪田群落あり	中～小規模の侵食、徐々に進行 未整備						
			永山岳～安足間岳分岐			G4	C(1/4)	保全が必要な雪田群落・風衝地群落・高山砂礫地あり	問題ない道、未整備						
			安足間岳分岐～愛別岳分岐～(ウ)					保全が必要な風衝地群落・高山砂礫地あり							
			(ウ)～北鎮岳				C(1/3)	保全が必要な雪田群落・風衝地群落・高山砂礫地あり	中～小規模の侵食、徐々に進行 未整備						
			北鎮岳～北鎮分岐				B(1/2)		大～小規模の侵食、徐々に進行 未整備						
－	－	愛別岳分岐～愛別岳	－	－	G4　※現在は点線表示	C(1/4)	保全が必要な風衝地群落・高山砂礫地あり	問題ない道、未整備		－				
10	当麻岳線	当麻乗越～(ア)	比布岳と当麻乗越を結ぶ登山道として整備する。	自然環境の保全に留意することとし、登山利用者の事故防止及び高山植物保護のため、整備、補修等を検討する。	G4	C(1/3)	ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落あり	中～小規模の侵食、徐々に進行 未整備		未執行（北海道が歩道敷地を借地？）				
		(ア)～安足間岳				B(1/2)	保全が必要な雪田群落・風衝地群落あり	大～小規模の侵食（周辺植生への影響大）、徐々に進行　未整備						
		安足間岳～安足間岳分岐				C(1/3)	保全が必要な風衝地群落あり	小規模の侵食、徐々に進行　未整備				ヤブ化		
11	中岳裾合平線	裾合平分岐～(ア)	中岳と裾合平を結ぶ登山道として整備する。	登山利用者の事故防止、高山植物保護及び侵食防止のため、補修等を実施する。	G3	A(1/1)	ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落あり	大～小規模の侵食、徐々に進行、一部で植生回復　木道整備済み、老朽化著しい		北海道	CFを活用した木道補修（2021～2025）			
		(ア)～中岳温泉				C(1/4)		問題ない道　未整備							
		中岳温泉～中岳分岐			G4	C(1/3)	ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落あり	大～小規模の侵食、徐々に進行 H26整備箇所、概ね良好		環境省	・点検、維持管理、モニタリング（毎年） ・再整備工事（2024）、補修（2025）	・更なる浸食防止、R6再整備工事後の維持管理		・定期的な巡視点検の実施 ・登山道の大きな荒廃が発生する前に、きめ細やかな維持管理を実施する
9	沼ノ平姿見の池線	沼ノ平分岐～六ノ沼	沼ノ平と姿見の池を結ぶ探勝歩道として整備する。	登山利用者の事故防止、高山植物保護及び侵食防止のため、補修等を実施する。	G2	C(1/4)	ハイマツ群落、チシマザサ群落、保全が必要な高層湿原あり	小規模の侵食、徐々に進行 木道、土留整備済み、概ね良好		環境省（※整理中）	・点検、維持管理、モニタリング、ササ刈り、必要により補修（毎年） ・木道設置・更新 ・補修箇所の調査及び補修方法の検討（裾合分岐～当麻乗越、2024）	・泥濘化や複線化が進行している箇所あり ・木道の老朽化が徐々に進行（沼ノ平分岐～六ノ沼） ・現地発生材が少ないため、補修には資材荷揚げが必要（六ノ沼～当麻乗越）		・今後も継続した補修とその準備作業が必要 ・全体の必要経費の試算に基づく予算確保手法検討、利用者側に求める事項の検討
		六ノ沼～当麻乗越～裾合平分岐			G3		ハイマツ群落、チシマザサ群落、保全が必要な雪田群落あり								
		裾合平分岐～姿見の池園地			G2			小規模の侵食、徐々に進行 木道、土留整備済み、補修され概ね良好	入山者数11,000（姿見の池園地付近、2025）						
－	姿見の池園地	姿見の池園地	散策・休憩のための園地として整備する。	高山植物保護のため、北海道、東川町大雪山国立公園保護協会等の協力により、園路にはロープを張り、周辺植生に立ち入らないよう努めるものとする。施設の規模については、現状程度とするが、特に混雑が見られ、周囲の植生に悪影響を及ぼす場合は、この限りでない。	G1	C(1/3)	保全が必要な雪田群落・高山砂礫地あり	小規模の侵食、概ね安定 土留等整備、小規模な侵食あるが概ね良好、利用多く頻繁な補修必要		北海道	点検、補修（毎年）			
－	勇駒別園地	勇駒別園地（見晴台コース・(ア)～(イ)・(ウ)～(エ)を除く）	（一部のみ）自然体験利用促進のため、博物展示施設の整備充実を図るとともに、地区外の歩道との連携に留意しつつ自然観察路等を整備する。	再整備に当たっては、既設の自然探勝路の活用を検討するとともに、新たな自然探勝路の整備も検討し、集団施設地区全体で自然探勝の利用が行われるよう努めるものとする。また、園路の下草払い等きめ細かい管理を実施する。	G1	C(1/4)	針広混交林、保全が必要な高層湿原あり	問題ない道　階段等整備、概ね良好						
		(ア)～(イ)（地区北側）			G1	C(2/2or1/3)	針広混交林	問題ない道　橋、階段等整備、橋老朽化						

地域	番号	路線名	区間	公園計画書(H31.3) －整備方針	管理運営計画書(R6.4) －公園事業取扱方針（一部省略あり）	登山道管理水準（2015） グレード(利用体験ランク)	保全対策ランク	植生の状況	荒廃、整備の状況	管理・利用の現況 利用者数、利用状況	公園事業執行	維持管理、補修等	課題整理	今後の利用目標	今後の管理方針
表大雪・縦走線	18	勇駒別周回線	(ウ)～(エ)（地区南側） 見晴台コース（地区北側）	勇駒別集団施設地区周辺の自然探勝路として整備する。	夏期は自然観察探勝、冬期はクロスカントリーコースとして整備検討するとともに既存探勝歩道についても維持管理が適正に行われるよう関係機関と調整を図る。現道の維持管理と	G1 G2	C(1/4) D(2/4)	保全が必要な高層湿原あり 針広混交林	問題ない道　木道土留整備、概ね良好 問題ない道　未整備、一部ヤブ化		東川町？ 未執行？				
	19	天人峡勇駒別線	天人峡旭岳温泉方面登山口～(ア) (ア)～(イ) (イ)～勇駒別園地	天人峡温泉と勇駒別集団施設地区を結ぶ探勝歩道として整備する。	現在、危険箇所があるため一部通行止めを行っている。 整備に当たっては、沿線の自然環境の保全に留意し、原則として、立木の伐採は行わないものとする。また、利用者の事故防止、高山植物保護及び侵食防止のため必要に応じて保全対策を行う。	G3（点線）	A(2/1) D(2/4) D(2/4)	針広混交林	登山道が崩落、通行困難　未整備 問題ない道　未整備 問題ない道　木道整備、概ね良好	通行止め（一般利用なし）	未執行		通行止め		
	20	羽衣敷島の滝線	天人峡羽衣・敷島の滝入口～羽衣の滝滝見場 羽衣の滝滝見場～敷島の滝	天人峡温泉と羽衣の滝・敷島の滝を結ぶ探勝歩道として整備する。	現在、危険箇所があるため通行止めを行っている。 整備に当たっては、利用者層に比較的高齢者が多いことから、安全な通行確保のため、天人峡温泉から羽衣の滝までは、歩道幅員2.5m以内、羽衣の滝から敷島の滝までは、1.5m	G1 非適用	D 非適用	針広混交林 針広混交林	現在通行止め　調査未実施 現在通行止め　調査未実施		北海道 －		通行止め 通行止め		
	21	天人峡化雲岳線	天人峡化雲岳方面登山口～滝見台 滝見台～(ア) (ア)～(イ) (イ)～(ウ)（第二公園付近） (ウ)～小化雲岳直下（ポン沼南） 小化雲岳直下（ポン沼南）～(オ) (オ)～化雲岳	化雲岳への登山道として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては、沿線の自然の改変を極力避け、侵食防止のため必要に応じて保全対策を行う。	G2 G4	C(2/2) D(2/4) C(1/3) B(1/2) C(1/4) A(1/1) C(1/3)	針広混交林 ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落あり 保全が必要な雪田群落あり ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落・風衝地群落あり 保全が必要な風衝地群落あり ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落あり	侵食はほとんどない、倒木多い 土留等整備済み、状態良好、崩れやすく頻繁に補修が必要な場所 小規模の侵食、概ね安定　未整備 小規模の侵食あり、ぬかるみ、概ね安定 木道、土留整備、侵食により土留破損、木道概ね良好 大規模の侵食、ぬかるみひどい、徐々に進行　未整備 小規模の侵食、ぬかるみ、概ね安定、ヤブ化　未整備 大規模の侵食、進行著しい　未整備 中～小規模の侵食、徐々に進行　未整備	入山者数500（登山口，2025）	林野庁	路肩決壊箇所の補修（2025）			
	13	銀泉台白雲岳線	銀泉台～赤岳登山口 赤岳登山口～第一花園 第一花園～見晴台 見晴台～赤岳 赤岳～白雲岳	白雲岳への登山道として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては、沿線の自然の改変を極力避け、侵食防止のため必要に応じて保全対策を行う。	G2 G3 G4	D(2/4) C(2/2orl/3) C(1/3) B(1/2) C(1/3)	針広混交林 保全が必要な雪田群落あり ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落・風衝地群落あり 保全が必要な風衝地群落あり	侵食はない　砂利道整備済み、状態良好 中～小規模の侵食、徐々に進行 土留、ステップ工整備済、土留周囲に小規模な侵食あり 小規模な侵食（拡幅）、徐々に進行 未整備 中～小規模の侵食、進行著しい箇所あり 土留整備（一部）、周囲に小規模な侵食あり、一部老朽化 中～小規模の侵食、徐々に進行 未整備	入山者数9,900（第一花園下，2025）	北海道	・第4雪渓付近の補修（2021～） ・第2花園付近の補修（2025） ・ロープ設置によるコースの明示	・第2・3・4花園等で侵食が著しく進行 ・赤岳山頂付近でのルートからの逸脱		
	14	高原温泉小泉岳線	大雪高原温泉～第二花畑 第二花畑～緑岳 緑岳～小泉岳分岐 板垣新道分岐～白雲岳避難小屋分岐	小泉岳への登山道として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては、沿線の自然の改変を極力避ける。	G3 G4 G4	C(1/3) C(1/3) C(1/3) B(1/2)	針広混交林、ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落・風衝地群落あり 保全が必要な雪田群落・風衝地群落あり 保全が必要な風衝地群落あり 保全が必要な雪田群落・風衝地群落あり	中～小規模の侵食、徐々に進行 土留、木道等の整備多い、周囲に小規模侵食あり 小規模の侵食、概ね安定、未整備 中～小規模の侵食進行、進行著しい箇所あり　未整備	入山者数2,000（登山口，2025）	林野庁 未執行	白雲岳避難小屋周辺登山道維持管理協力金による補修対象区間			
	15	高原温泉高根ヶ原線	大雪高原温泉～緑沼 緑沼～三笠新道分岐～ヤンベ温泉分岐 三笠新道分岐～高根ヶ原分岐	高根ヶ原への登山道及び高原沼への探勝歩道として整備する。	「大雪高原温泉地区管理運営計画」（案）に基づき定められている登山道の利用ルールを遵守するよう指導する。 沿線の自然の改変を極力避けるため自然環境の保全に留意することとし、登山利用者の事故防止、湿原部分湿原植物の保護を図るため整備、補修、維持管理を適切に行う。	G2 G3 G5（点線）	C(1/4) C(1/3) C(1/4)	針葉樹林、保全が必要な高層湿原あり 保全が必要な雪田群落あり	問題ない道　木道土留整備済み、一部老朽化、頻繁な維持管理が必要 小規模の侵食、進行遅い 木道土留整備済み（一部）、一部老朽化、頻繁な維持管理が必要 小規模の侵食、概ね安定 未整備（注）ヒグマとの軋轢を避けるため夏山シーズンは通行止め	3,700（ヒグマ情報センター利用者数） 利用者数不明。7月初旬以降、ヒグマの定着が確認され次第閉鎖	北海道	補修、木道・木橋の更新			
	17	ヤンベタップ五色岳線	ヤンベタップ川合流点～クチャンベツ沼ノ原登山口 クチャンベツ沼ノ原登山口～(ア) (ア)～沼ノ原湿原入口付近 沼ノ原入口付近～？ ？～ ～五色分岐	沼ノ原及び五色ヶ原への登山道として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては、自然環境の保全に留意することとし、登山利用者の事故防止、高山植物保護及び侵食防止のため十分な保全対策を行う。	－ G4	－ C(2/2) A(2/1) C(1/4)	－ 針広混交林 針広混交林、ダケカンバ林 針広混交林、保全が必要な高層湿原あり	－ 小規模の侵食、近年付替えたルート、徐々に進行 土留整備、周辺に小規模侵食あり 大～小規模の侵食、急激に進行（歩行困難な状態）　土留整備、一部老朽化 問題ない道　木道整備済み、概ね良好	入山者数1,000（登山口，2025）	未執行 北海道 環境省 北海道	層雲峡本流林道 ・官民協働登山道補修事業の実施（コロンビア社との連携） ・点検、維持管理、モニタリング（沼ノ原分岐～沼ノ原大沼） ・木道更新（沼ノ原大沼～五色岳の区間のうち700m、R6）	林道として管理、歩道利用なし 湿原木道の老朽化は未だそこまで進行していないが、周辺の湿原も含め引き続き状況の注視が必要 木道老朽化が著しい		・施設点検・モニタリングの継続実施 ・沼ノ原分岐標識の補修
	12	大雪山縦走線	北海岳分岐～白雲岳分岐～白雲岳避難小屋分岐 白雲岳避難小屋分岐～(ア) (ア)～高根ヶ原分岐 高根ヶ原分岐～平ヶ岳付近（イ） 平ヶ岳付近（イ）～(ウ) (ウ)～忠別沼北（エ） 忠別沼北（エ）～忠別沼南（オ） 忠別沼南（オ）～忠別岳 忠別岳～忠別岳避難小屋分岐～五色分岐 五色分岐～(イ) (イ)～化雲岳周辺～ヒサゴ沼北分岐 ヒサゴ沼北分岐～ヒサゴ沼南分岐 ヒサゴ沼北分岐～(ク) (ク)～ヒサゴ沼避難小屋分岐 ヒサゴ沼避難小屋分岐～ヒサゴ沼避難小屋 ヒサゴ沼避難小屋分岐～(コ) (コ)～(サ) (サ)～ヒサゴ沼南分岐 ヒサゴ沼南分岐～天沼 天沼～北沼分岐 北沼分岐～トムラウシ山 トムラウシ山～トムラウシ分岐～南沼 南沼～三川台～(イ) (イ)～(ウ) (ウ)～(エ) (エ)～(オ) (オ)～(カ) (カ)～(キ) (キ)～(ク) (ク)～オプタテシケ山 オプタテシケ山～美瑛富士分岐～十勝岳・美瑛富士分岐	大雪山を縦走する幹線登山道として、原始性の高い自然の雰囲気を保つために必要最小限又は必要な整備を行う。	沿線の自然の改変を極力避け、侵食防止のため必要に応じて保全対策を行い、登山利用者の事故防止及び高山植物保護のため、整備、補修等を実施する。	G4 G5 G4 G5 G5 G5 G5 G5 G5	A(1/1) B(1/2) C(1/3) C(1/4) C(1/3) C(1/4) C(1/3) C(1/4) C(1/4) C(1/4) A(1/1) C(1/4) C(1/4) C(1/3) A(1/1) C(1/4) C(1/4) C(1/3) C(1/4) C(1/3) C(1/3)	ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落・風衝地群落・高山砂礫地あり ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落あり ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落あり ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落・風衝地群落あり ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落あり ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落あり ハイマツ群落 保全が必要な雪田群落・風衝地群落あり ハイマツ群落 ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落あり 保全が必要な雪田群落あり 保全が必要な雪田群落あり 巨岩帯 ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落あり 巨岩帯、保全が必要な風衝地群落あり ハイマツ群落、巨岩帯、保全が必要な風衝地群落あり 保全が必要な風衝地群落・雪田群落あり ハイマツ群落、チシマザサ群落、保全が必要な風衝地群落あり ハイマツ群落、チシマザサ群落 ハイマツ群落、チシマザサ群落、低木群落 ハイマツ群落、チシマザサ群落 ハイマツ群落、チシマザサ群落、保全が必要な雪田群落あり ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落、雪田群落あり ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落・雪田群落・高山砂礫地あり	大～小規模の侵食、進行著しい箇所あり　未整備 中～小規模の侵食、進行著しい箇所あり　土留整備（一部）、状態良好 小規模の侵食、概ね安定　未整備 中～小規模の侵食、徐々に進行、ぬかるみや水溜りひどい　木道整備済み、部分的に老朽化 侵食はほとんどない　未整備 小規模の侵食あり、徐々に進行　木道整備済み、概ね良好だが一部老朽化 侵食はほとんどない　未整備 中～小規模の侵食、徐々に進行　未整備 問題ない道　未整備 小規模の侵食、概ね安定　木道整備、状態良好 小規模の侵食、概ね安定　未整備 小規模の侵食、概ね安定　木道整備済み、状態良好 大～中規模の侵食（雪渓を避けて複線化）、進行著しい　土留整備済み、破損し機能不全あり 侵食はない　木道整備済み、状態良好 侵食はない　木道整備済み、状態良好 大規模の侵食（雪渓を避けて歩行）、進行著しい　土留整備済み、周囲に小規模な侵食あり 問題ない道　未整備 小規模の侵食、概ね安定　木道整備済み、状態良好 中～小規模の侵食、徐々に進行　未整備、巨岩帯がルート不明瞭 大～小規模の侵食、進行著しい　未整備 小規模の侵食、概ね安定、ヤブ化（一部）　未整備 中規模の侵食、徐々に進行　鎖の設置あり、状態良好 小規模の侵食、概ね安定　未整備 小規模の侵食、概ね安定、ヤブ化（一部）、未整備 小規模の侵食、概ね安定　未整備 中～小規模の侵食、ぬかるみ、徐々に進行　未整備 中～小規模の侵食、徐々に進行　未整備	協力金協力者数1,857（2025）	北海道 環境省 北海道 北海道 北海道	白雲岳避難小屋周辺登山道維持管理協力金による登山道補修 白雲岳避難小屋周辺登山道維持管理協力金による登山道補修 直轄再整備設計（2021年，高根ヶ原分岐～五色岳） 直轄再整備設計（2022年，五色岳～ヒサゴ分岐・一部除く） 直轄再整備設計（2022年，ヒサゴ沼周辺歩道）	・ヒサゴ沼周辺歩道については、雪解け水による歩道路肩の崩壊が進む		・老朽化した木道等について、現北海道の執行区間を環境省で再整備

	公園計画・管理運営計画					登山道管理水準（2015）				管理・利用の現況				今後の利用目標	今後の管理方針
地域	番号	路線名	区間	公園計画書(H31.3) ー整備方針	管理運営計画書(R6.4) ー公園事業取扱方針（一部省略あり）	グレード(利用体験ランク)	保全対策ランク	植生の状況	荒廃、整備の状況	利用者数、利用状況	公園事業執行	維持管理、補修等	課題整理		
十勝岳周辺			十勝岳・美瑛富士分岐～十勝岳 十勝岳～上ホロ避難小屋分岐			G4	C(1/4)	保全が必要な風衝地群落・高山砂礫地あり	小規模の侵食、概ね安定　未整備						
			上ホロ避難小屋分岐～上ホロ山南分岐～上富良野岳				C(1/3)	ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落あり	中～小規模の侵食、徐々に進行 未整備						
			上富良野岳～(エ)				C(1/4)		問題ない道　未整備						
			(エ)～富良野岳肩分岐				C(1/3)	ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落あり	中～小規模の侵食、徐々に進行 土留、ステップ等整備、状態良好						
			富良野岳肩分岐～(カ)				C(1/3)	ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落あり	大規模の裸地あり、歩行部は整備済みで概ね安定、土留整備済み、状態良好						
			(カ)～富良野岳				A(1/1)	保全が必要な風衝地群落あり	大～小規模の侵食が集中、進行早い 未整備						
			富良野岳～(ア)			G4	C(1/3)	保全が必要な風衝地群落あり	中～小規模の侵食、概ね安定　未整備		未執行				
			(ア)～(イ)				D(2/4)	チシマザサ群落、低木群落	問題ない道　ぬかるみ　未整備						
			(イ)～富良野岳分岐				C(1/4)		前回調査の複線化箇所で植生回復、ぬかるみひどい　未整備						
			富良野岳分岐～(エ)				C(1/3)	針葉樹林、保全が必要な高層湿原あり	中～小規模の侵食、ぬかるみ、概ね安定 未整備						
			(エ)～布礼別登山口				D(2/4)	針広混交林	問題ない道　未整備	入山者数500（原始ヶ原登山口，2025）					
	ー	ー	忠別岳避難小屋分岐～忠別岳避難小屋	ー	ー	G5	B(1/2)	ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落あり	中～小規模の侵食、徐々に進行　未整備		ー				
	ー	ー	台地ゲート～三川台	ー	ー	G5（図中点線）	C(1/3)	針広混交林、ダケカンバ林、ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落あり	中～小規模の侵食、徐々に進行 未整備：(注)一般供用された登山道ではない		ー				
	ー	ー	美瑛富士分岐～美瑛富士	ー	ー	G4	C(1/3)	ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落・雪田群落・高山砂礫地あり	中～小規模の侵食、徐々に進行 未整備		ー				
	ー	ー	上ホロ避難小屋分岐～(上ホロ巻道)～上ホロ山南分岐	ー	ー	G4	C(1/3)	ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落あり	中～小規模の侵食、概ね安定 未整備		ー				
	22	美瑛富士線	美瑛富士登山口～標高1350m付近 標高1350m付近～美瑛富士避難小屋分岐／美瑛富士避難小屋・オプタテシケ方面分岐	美瑛富士への登山道として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては、自然環境の保全に留意することとし、登山利用者の事故防止、高山植物保護及び侵食防止のため十分な保全対策を行う。	G3	C(2/2or1/3)	針広混交林、針葉樹林、ダケカンバ林、ハイマツ群落	中～小規模の侵食、徐々に進行　未整備	入山者数700（登山口，2025）	ー	枝払い、ササ刈り			
							A(1/1)	ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落あり	大～小規模の侵食、進行著しい 土留整備、周囲に侵食が生じ機能不全						
	ー	ー	白金温泉ウグイス谷歩道口～望岳台（ウグイス谷歩道）	ー	ー	G2	C	針広混交林	調査未実施						
	23	白金温泉十勝岳線	白金温泉望岳台歩道口～望岳台（望岳台歩道）	望岳台及び十勝岳への登山道として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては、自然環境の保全に留意することとし、高山植物保護、侵食防止及び登山利用者の事故防止のため、ロープ張り等の整備について関係機関と調整を図る。	非適用	非適用	針広混交林	中～小規模の侵食、進行著しい箇所あり 旧スキーコース（望岳台歩道）		北海道？				
			望岳台～十勝岳			G3	C(1/4)	保全が必要な硫気荒原群落・高山砂礫地あり	小規模の侵食、概ね安定　未整備	入山者数13,000（十勝岳登山口，2024）	北海道	・望岳台付近ロープ張り（振興局） ・登山道沿いのロープ張り、ロープ降ろし（PV）			
	25	美瑛岳線	雲ノ平分岐～美瑛岳分岐	美瑛岳への登山道として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては、自然環境の保全に留意することとし、登山利用者の事故防止、高山植物保護及び侵食防止のため、現道の維持管理を適切に行うほか、特にボンピ沢の付近は、急斜面の箇所があり、ロープの設置等をし、歩行者の安全対策に留意する必要がある。	G3	C(1/3)	ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落あり	小規模の侵食、概ね安定　土留整備（ハイマツ帯の局所），小規模な侵食		ー	ボランティアで随時パトロール	・北向沢のハシゴの維持管理		
			美瑛岳分岐～美瑛富士分岐			G3	C(1/4)	ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落あり	小規模の侵食、概ね安定　未整備		ー				
			美瑛岳分岐～美瑛岳			G3	B(1/2)	ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落あり	大～小規模の侵食、進行著しい（ハイマツ群落），未整備		ー				
			美瑛岳～十勝岳・美瑛富士分岐				C(1/4)	保全が必要な風衝地群落あり	問題ない道　未整備						
	ー	ー	望岳台南分岐～泥流分岐	ー	ー	G2	C(1/3)	保全が必要な風衝地群落・高山砂礫地あり	中～小規模の侵食あり、徐々に進行（局所的に進行した箇所あり）　未整備		ー				
	24	望岳台十勝岳温泉線	白銀荘分岐～泥流分岐～吹上温泉十勝岳方面登山口	望岳台と十勝岳温泉を結ぶ探勝歩道として整備する。	現道の維持管理と利用者の事故防止及び利便性の確保のために必要な対策を行う。	G2	C(1/4)	針葉樹林、ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落・硫気荒原群落あり	小規模の侵食、概ね安定　未整備		ー				
			吹上温泉～十勝岳温泉			ー	ー	ー	ー		ー		計画のみ　歩道なし？		
	ー	ー	十勝岳温泉西分岐～十勝岳温泉吹上温泉方面口／旧国民宿舎	（十勝岳温泉付近は望岳台十勝岳温泉線(計画のみ)と重複？）	ー	G2	D(2/4)	針広混交林	問題ない道　未整備						
	26	三段山線	吹上温泉三段山方面登山口～三段山分岐	三段山への登山道として整備する。	現道の一部は危険な箇所があることから、整備、補修、維持管理に当たっては、現道の維持と登山利用者の事故防止及び利便性の確保のために必要な対策を行うものとする。	G3	C(1/3)	針葉樹林、針広混交林、ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落あり	中～小規模の侵食、概ね安定 土留整備、周囲に小規模侵食生じ老朽化		上富良野町	・老朽化した標識の再整備（三段山分岐標識） ・山頂付近のロープ張り ・ササ刈り，倒木処理			
	27	富良野岳上ホロカメットク山線	十勝岳温泉登山口～上ホロ分岐	富良野岳及び上ホロカメットク山への登山道として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては、自然環境の保全に留意することとし、登山利用者の事故防止、高山植物保護及び侵食防止のため、安政火口までは軽登山ルートとしてある程度の幅員を確保し、それ以奥は登山道として最小限の幅員とする。	G3	C(2/2)	針広混交林、チシマザサ群落、ハイマツ群落	中～小規模の侵食、著しく進行 土留、排水整備、小規模侵食生じケーブル露出	入山者数16,000（安政火口，2025）	北海道	・PV活動による登山道沿いのロープ張り・下ろし			
			上ホロ分岐～上富良野岳			G3	C(1/3)	チシマザサ群落、ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落・風衝地群落あり	中～小規模の侵食、徐々に進行 土留整備、周囲に小規模侵食あり		北海道				
			上ホロ分岐～(イ)			G3	C(2/2or1/3)	チシマザサ群落、ハイマツ群落	中～小規模の侵食、徐々に進行 土留整備、周囲に小規模侵食あり		北海道				
			(イ)～(ウ)				D(2/4)		問題ない道　未整備						
			(ウ)～富良野岳肩分岐				C(2/2)		中～小規模の侵食、徐々に進行 土留整備、一部で小規模侵食が生じ機能不全状態			・浸食等の現場検証及び老朽化した標識盤再整備予定、（上川総合振興局）	・富良野岳肩上部における侵食、階段ハードル化		
	1	原始ヶ原線	富良野岳分岐～勝竜ノ滝	原始ヶ原への探勝歩道として整備する。	富良野市三の沢歩道分岐からニングルの森を経由し五反沼までの湿原探勝路は、林間コース（天使の泉、広原の滝を経由する。）と滝コース（不動の滝、勝竜の滝を経由する。）の２コースがある。湿原探勝路は、湿原の高山植物が踏圧により荒廃していることから、植生保護のため、歩行区域を設定する等必要な措置を講ずる必要がある。 整備、補修、維持管理に当たっては、沿線の自然環境の保全に留意することとし、利用者の事故防止、高山植物保護及び侵食防止のため必要に応じて保全対策を行う。	G5	C(1/4)	保全が必要な高層湿原あり	問題ない道　未整備		ー	●下草刈、枝払い			
			滝・沼コース分岐～五反沼			非適用	非適用	保全が必要な高層湿原あり	問題ない道、ヤブ化著しい、ルート不明瞭　未整備		ー				
			五反沼～富良野岳肩分岐			ー	ー	ー	ー		ー				
	ー	ー	勝竜ノ滝～不動ノ滝入口	ー	ー	G5	D	針葉樹林	調査未実施						
	ー	ー	不動の滝入口との連絡部～布礼別登山口分岐	ー	ー	非適用	非適用	針葉樹林	調査未実施						

4

	公園計画・管理運営計画					登山道管理水準（2015）				管理・利用の現況				今後の利用目標	今後の管理方針
地域	番号	路線名	区間	公園計画書（H31.3） ー整備方針	管理運営計画書（R6.4） ー公園事業取扱方針（一部省略あり）	グレード（利用体験ランク）	保全対策ランク	植生の状況	荒廃、整備の状況	利用者数、利用状況	公園事業執行	維持管理、補修等	課題整理		
東大雪	37	トムラウシ山線	短縮コース登山口～温泉コース分岐	トムラウシ山への登山道として、原始性の高い自然の雰囲気を保つために必要最小限又は必要な整備を行う。	利用者の増加にともない事故も増加したため、一部ルートの付け替えを行っている。なお、登山口よりコマドリ沢までの区間は泥濘化、トムラウシ公園、南沼野営指定地などでは、複線化が深刻な状況となっている。 整備、補修、維持管理に当たっては、沿線の自然の改変を極力避け、排水溝や植生への踏み込み防止措置を行うとともに、侵食防止のため必要に応じて保全対策を行う。	G4	D(2/3)	針広混交林	小規模の侵食、徐々に進行 土留整備、周囲に小規模の侵食あり	入山者数3,400（登山口，2025）	未執行					
			トムラウシ温泉登山口～温泉コース分岐				D(2/3)	針広混交林	中～小規模の侵食、概ね安定　未整備	入山者数200（登山口，2025）	環境省	・点検：維持管理作業 ・補修：簡易木道施工	・カムイ天上区間の洗掘対策		・洗掘箇所への簡易木道の設置を継続
			温泉コース分岐～カムイ天上				C(2/2)		小規模の侵食、概ね安定 土留、排水等整備済み、周囲に小規模の侵食あり（要補修：管理）						
			カムイ天上～コマドリ沢出合						中～小規模の侵食、ぬかるみ、近年付け替えた区間であり進行著しい 木道、土留、ステップ、排水等整備、周囲に小規模の侵食あり						
			コマドリ沢出合～前トム平				C(1/4)	ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落，高層湿原あり	問題ない道　未整備						
			前トム平～トムラウシ公園					ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落，雪田群落あり							
			トムラウシ公園～(イ)			G5	B(1/2)	ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落あり	大～小規模の侵食、徐々に進行 土留、ステップ等整備、周囲に小規模の侵食あり						
			(イ)～トムラウシ分岐(西)（トムラウシ分岐付近）				A(1/1)	保全が必要な雪田群落あり	大規模の侵食、進行著しい　未整備						
			トムラウシ分岐(西)～北沼分岐			G5	C(1/3)	保全が必要な雪田群落・風衝地群落あり	中～小規模の侵食、徐々に進行　未整備		未執行				
	38	トムラウシ温泉周回線	トムラウシ温泉～霧吹ノ滝入口	トムラウシ温泉周辺の探勝歩道として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては、現道の維持管理と登山利用者の事故防止及び利便性の確保のために必要な対策を行う。	ー	ー	ー	ー		ー	ユートムラウシ林道			
			霧吹ノ滝入口～霧吹ノ滝			非適用	非適用		現在通行止め 調査未実施（一部のみ調査実施）		ー				
			霧吹ノ滝～霧吹ノ滝入口			ー	ー	ー	ー		ー	車道			
	39	曙橋十勝岳線	曙橋～十勝岳新得登山口	十勝岳への登山道として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては、自然環境の保全に留意することとし、登山利用者の事故防止、高山植物保護及び侵食防止のため必要に応じて保全対策を行う。	ー	ー	ー	ー		ー	車道			
			十勝岳新得登山口～滝下渡渉点			G4	D(2/4)	針広混交林、ハイマツ群落	問題ない道、倒木あり　未整備	入山者数0～50（登山口，2025）	ー				
			滝下渡渉点～(イ)				C(2/2)	ハイマツ群落	大～小規模の侵食、徐々に進行、未整備						
			(イ)～新得コース分岐				C(1/4)	保全が必要な風衝地群落あり、硫気荒原	問題ない道、ルート不明瞭　未整備						
	ー	ー	ボンユニ石狩沢登山口～十石峠	ー	ー	非適用	非適用		林道通行止め　調査未実施（一部のみ調査実施）				廃止		
	29	石狩連峰縦走線	十勝三股～ユニ石狩岳三股登山口～シュナイダー登山口	石狩岳連峰を縦走する登山道として原始性の高い自然の雰囲気を保つために必要最小限又は必要な整備を行う。ユニ石狩岳からユニ石狩岳登山口を結ぶ区間は、大雪山の雄大な自然の雰囲気を保つための整備を行う。	整備、補修、維持管理に当たっては、沿線の自然の改変を極力避け、侵食防止のため必要に応じて保全対策を行う。	ー	ー	ー	ー		ー	音更川本流林道			
			ユニ石狩岳三股登山口～十石峠			G3	D(2/4)	針広混交林、針葉樹林、ダケカンバ林、ハイマツ群落	問題ない道　倒木多い　未整備	入山者数200（ユニ石狩岳登山口，2025）	ー				
			十石峠～ユニ石狩岳			G3	C(1/4)	ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落あり	小規模の侵食、概ね安定　未整備		ー				
			十石峠～音更山東肩			G4	D(2/4)	ハイマツ群落、ダケカンバ林	問題ない道、前回調査時の複線化箇所の一部で植生回復　未整備		ー				
			音更山東肩～シュナイダーの肩				C(1/4)	ハイマツ群落、ダケカンバ林、保全が必要な風衝地群落			ー				
			シュナイダー登山口～(ア)			G4	D(2/4)	針広混交林、針葉樹林	小規模の侵食と路肩崩落、概ね安定 未整備	1,100（石狩岳登山口，2025）	ー	・ササ刈り、倒木処理、かん木除去（ひがし大雪自然館運営協議会）			
			(ア)～シュナイダーの肩～石狩岳				C(1/3)	針広混交林、ハイマツ群落、保全が必要な雪田群落あり	中～小規模の侵食と路肩崩落、概ね安定 未整備、フィックスロープの設置あり		ー				
			石狩岳～(ア)			G5	C(1/4)	ハイマツ群落、高山砂礫地、保全が必要な風衝地群落・雪田群落あり	小規模の侵食、概ね安定　未整備		ー				
			(ア)～(イ)				D(2/3)	ハイマツ・チシマザサ群落、ダケカンバ林	中～小規模の侵食、概ね安定　未整備		ー				
			(イ)～石狩分岐				C(1/4)	チシマザサ群落、保全が必要な高層湿原あり	小規模の侵食、概ね安定 未整備、湿原内ルート不明瞭		ー				
			石狩分岐～沼ノ原分岐			G5	D(2/4)	チシマザサ群落	小規模の侵食、概ね安定　未整備		ー				
	40	曙橋沼ノ原線	曙橋～ヌプントムラウシ温泉登山口	沼ノ原への登山道として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては、沿線の自然の改変を極力避け、侵食防止のため必要に応じて保全対策を行う。	ー	ー	ー	ー		ー	ヌプントムラウシ林道	大規模災害により当面復旧の見通しなし		
			ヌプントムラウシ温泉登山口～石狩分岐			非適用	非適用		林道通行止め　調査未実施		ー		林道通行止めによりアプローチ不可		
	28	十勝三股ニペソツ山線	十勝三股～十六ノ沢コース登山口	ニペソツ山への登山道として整備する。	近年登山者の増加が著しいことから、登山道侵食が深刻化している。整備、補修、維持管理に当たっては、沿線の自然の改変を極力避けるとともに、登山道侵食防止のため排水工等を整備する。また、登山利用者の事故防止、高山植物保護及び侵食防止のため必要に応じて保全対策を行う。	ー	ー	ー	ー		ー	十六ノ沢林道			
			十六ノ沢コース登山口～小天狗のコル			G4	C	針葉樹林、針広混交林、ダケカンバ林、ハイマツ群落	中～小規模の侵食、徐々に進行 土留（一部）、概ね良好、倒木あり		ー	・ササ刈り、倒木処理、ロープ張り（ひがし大雪自然館運営協議会）			
			小天狗のコル～(イ)				B	チシマザサ群落	大～小規模の侵食、進行著しい　未整備						
			(イ)～前天狗南分岐				C(1/4)	ハイマツ群落、巨石帯、保全が必要な風衝地群落あり	問題ない道　未整備						
			前天狗南分岐～ニペソツ山				C(1/3)	ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落，雪田群落あり	中～小規模の侵食、徐々に進行（一部） 未整備						
			幌加温泉登山口～前天狗南分岐			非適用	非適用		調査未実施（ルート不明瞭、一部のみ調査実施）	入山者数1,400（幌加温泉コース，2025）	ー				
	30	糠平ウペペサンケ山線	糠平温泉～糠平コース新登山口	ウペペサンケ山への登山道として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては、沿線の自然の改変を極力避けることとし、登山利用者の事故防止、高山植物保護及び侵食防止のため十分な保全対策を行う。	ー	ー	ー	ー		ー	車道			
			糠平コース新登山口～(ア)			G3	C(2/2)	針葉樹林、針広混交林、ダケカンバ林	付替区間は侵食の進行著しい、以降は小規模の侵食、徐々に進行 未整備、付替区間以降は倒木あり	入山者数600（登山口，2025）	ー	・ササ刈り、倒木処理、かん木除去（ひがし大雪自然館運営協議会）			
			(ア)～普野温泉東コース分岐				D(2/4)	ハイマツ群落	小規模の侵食、概ね安定　未整備						
			普野温泉東コース分岐～ウペペサンケ山西ピーク				C(1/4)	ハイマツ群落、保全が必要な風衝地群落あり							
	ー	ー	ウペペサンケ山西ピーク～普野温泉西コース登山口	ー	ー	非適用	非適用		林道通行止め　調査未実施						
	32	然別峡ウペペサンケ山線	然別峡～普野温泉東コース登山口	ウペペサンケ山への登山道として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては、自然環境の保全に留意することとし、登山利用者の事故防止、高山植物保護及び侵食防止のため必要に応じて保全対策を行う。	ー	ー	ー	ー		ー	ユウヤンベツ林道			
			普野温泉東コース登山口～普野温泉東コース分岐			非適用	非適用		林道通行止め　調査未実施		ー				
	31	糠平天宝山線	天宝山登山口～天宝山	天宝山への登山道として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては、現道の維持管理と登山利用者の事故防止及び利便性の確保のために必要な対策を行う。	G2	D(2/4)	針広混交林、針葉樹林	小規模の侵食わずかにあり、概ね安定 未整備		未執行	・ササ刈り、倒木処理、かん木除去（ひがし大雪自然館運営協議会）	・旧鉄道トンネル迂回箇所の危険個所？		
	41	北海道自然歩道線（一部）	軌道跡トンネル～鉄道資料館	北海道自然歩道のうち、清水谷から糠平温泉、糠平湖を経て、十勝三股に至る探勝歩道として整備する。	長距離自然歩道としての統一性を保ちつつ、糠平集団施設地区及び十勝三股集団施設地区との連携を重視した整備を図る。整備、補修、維持管理に当たっては、自然環境の保全に留意することとし、既存の歩道を最大限活用し、登山利用者	非適用	非適用		北海道自然歩道として未供用		未執行				
			鉄道資料館～メトセップ			G1	D(2/4)	針広混交林	問題ない道　軌道跡を歩道整備、状態良好、倒木あり		北海道	・老朽化して危険な階段・木道の更新			
	33	南ペトウトル山線	南ペトウトル山登山口～南ペトウトル山	南ペトウトル山への登山道として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては、自然環境の保全に留意することとし、登山利用者の事故防止、高山植物保護及び侵食防止のため必要に応じて保全対策を行う。	G2	D(2/4)	針広混交林	侵食無いが、ヤブ化しルート不明瞭区間あり　未整備	入山者数100（登山口，2025）	ー	・ササ刈り、倒木処理、かん木除去（然別自然休養林保護管理協議会）			
	34	天望山周回線	白雲橋～白雲山～天望山～然別湖南岸？	白雲山、天望山及び東雲湖への探勝歩道として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては、自然環境の保全に留意することとし、登山利用者の事故防止、高山植物保護及び侵食防止のため必要に応じて保全対策を行う。	G2	D(2/4)	針広混交林、ダケカンバ林、高茎草本群落（オキウサギ生息地）	小規模の侵食、概ね安定 未整備、ヤブ化、倒木あり	入山者数1,800（鹿追側登山口，2025）	林野庁	・ササ刈り、倒木処理、かん木除去（然別自然休養林保護管理協議会）			
			白雲橋～天望山登山口～然別湖南岸								未執行				
			士幌高原コース分岐～白雲山士幌高原登山口							入山者数900（士幌側登山口，2025）	未執行				
	35	駒止湖東ヌプカウシヌプリ線	駒止湖入口～東ヌプカシウヌプリ登山口	駒止湖及び東ヌプカシウヌプリへの探勝歩道として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては、自然環境の保全に留意することとし、登山利用者の事故防止、高山植物保護及び侵食防止のため必要に応じて保全対策を行う。	G1	D(2/4)	針広混交林、ダケカンバ林	侵食無いが、ヤブ化、倒木あり　未整備		ー	・ササ刈り、倒木処理、かん木除去（然別自然休養林保護管理協議会）			
			東ヌプカシウヌプリ登山口～東ヌプカシウヌプリ			G2		針葉樹林、針広混交林、チシマザサ群落	問題ない道　未整備	入山者数1,700（登山口，2025）					
	36	西ヌプカウシヌプリ線		西ヌプカウシヌプリへの登山道として整備する。	整備、補修、維持管理に当たっては、自然環境の保全に留意することとし、登山利用者の事故防止、高山植物保護及び侵食防止のため必要に応じて保全対策を行う。	G2	D(2/4)	針広混交林、ダケカンバ林、巨岩帯	侵食無いが、ヤブ化、倒木あり　未整備		ー	・ササ刈り、倒木処理、かん木除去（然別自然休養林保護管理協議会）			

5

＜別紙２＞野営指定地・避難小屋等の管理状況（2026年6月現在）

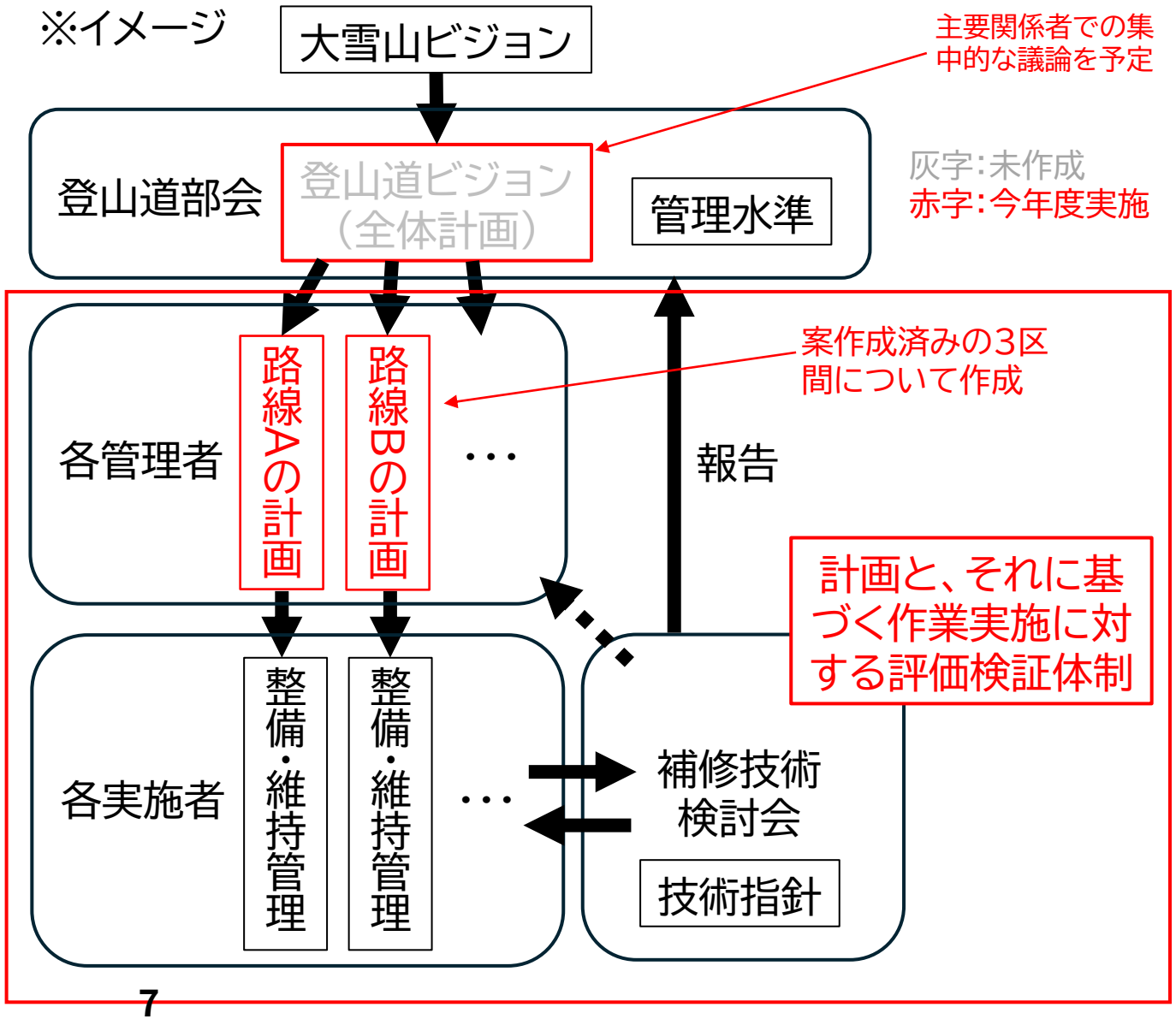
場所	市町	野営指定地			避難小屋		トイレ/携帯トイレブース			現況の課題	今後の方針・目標
		保全対策ランク	利用者数、利用状況	管理者、管理状況	利用者数・利用状況	管理者、管理状況	設置状況	利用者数・利用状況	管理者、管理状況		
黒岳石室	上川	C		NPO悠久の森		りんゆう観光・管理人常駐	トイレ・携帯トイレブース	2025年：11,457人	北海道 トイレのみ利用協力金500円/人	・野営指定地の一部でガリー侵食が進行 ・トイレの生物処理が十分機能せず、改善の検討・作業を実施中。一部を携帯トイレブースとして使用	
裏旭	東川	B	2024.7.19～9.29(73日間)でテント数168張、約228人	管理者なし	―	―	仮設携帯トイレブース(2023・24)	2024.7.4～9.30：580人（手動カウンター）	環境省業務で2ヶ年実施	・周辺の利用拠点との位置関係や雪田/風衝地草原保全上、野営指定地としての存続の要否を要考慮 ・携帯トイレブースの定期設置に際しては、維持管理体制の構築が課題	状況をみつつ、野営指定地及びトイレのあり方について関係者間で検討
姿見の池	東川	―	―	―		北海道・無人管理	携帯トイレブース		北海道 東川町や民間団体による巡視時に点検・清掃支援		
白雲岳	上川	C	宿泊者910人（2025）	上川町（環境省との協定に基づく） 宿泊協力金500円/泊	宿泊者768人、日帰り利用者666人（2025）	上川町（環境省施設）・管理人常駐	トイレ		北海道 避難小屋で管理	・付帯トイレは今後環境省による改修を予定	改修再整備に向けた、汲取物の搬出その他維持管理体制全般の検討・調整（2026～）
忠別岳	上川	D	2024年：避難小屋設置ノートの記録で7/3～9/21のテント数43張	管理者なし		北海道・無人管理	トイレ		北海道 白雲岳避難小屋管理人による巡視時に点検・清掃の支援	・避難小屋の老朽化が著しい ・避難小屋及び付帯トイレは今後環境省による改修を予定	改修再整備に向けた、維持管理体制全般の検討・調整（2026～）
ヒサゴ沼	新得	B				北海道・無人管理	トイレ		北海道		
トムラウシ南沼	新得、美瑛	B	2025年：自動カメラによる調査で6/17～9/30のテント数497張	管理者なし	―	―	携帯トイレブース	2025年：704（手動カウンター）	北海道 新得山友会に委託		
双子池	美瑛、新得	A			―	―	―	―			
美瑛富士	美瑛、新得	D		管理者なし		美瑛町・無人管理	携帯トイレブース	2025年：479（手動カウンター）	美瑛町、美瑛富士トイレ管理連絡会、環境省（環境省施設）		
十勝岳	美瑛	―	―	―		林野庁・無人管理	―	―	―		
上ホロカメットク	上富良野、新得	C		北海道		北海道・無人管理	トイレ		北海道 地元山岳会による巡視時に点検・清掃の支援		
沼ノ原大沼	上川	D		管理者なし	―	―	―	―	―	・沼畔に位置し、時期により水没する ・携帯トイレブース設置の必要が課題提起されており（＜山トイレの会R6調査報告書）、維持管理体制の検討が課題とされている	
ブヨ沼	上士幌、上川	D		管理者なし	―	―	―	―	―		
小天狗のコル	上士幌	D		管理者なし	―	―	―	―	―		
ニペソツ山前天狗	上士幌	なし		管理者なし	―	―	携帯トイレブース		北海道 ひがし大雪自然ガイドセンターに委託	管理運営計画改定時に追加 大連協HPの登山情報>野営指定地にも未掲載	

登山道に関する計画作成及び評価体制の検討

資料1-2

＜2026年度実施予定内容＞

- 路線単位の計画案を作成済みの3区間[1]について、検討委員[2]による現地評価検証を実施（8～9月）
  [1]クチャンベツ登山口～沼ノ原湿原入口間、銀泉台～赤岳山頂間、姿見の池園地歩道→旭岳周回コース
  [2]将来的な評価検証体制を担う専門家を想定して業務内で選定。道内外から3名程度
- 各計画、評価検証及び全体の実施体制に関する検討会の実施（秋～冬、1～2回？）
- 上記3区間/路線に係る、区間ごとの計画[3]の作成（～年度末）
  [3]区間の単位は未定だが、一体的な利用が行われている区間とすることを目指す。→例：クチャンベツ登山口～五色岳間、銀泉台～白雲岳山頂間、旭岳周回コース
- 今後の各計画作成方針及び評価検証実施方針・体制の作成（～年度末）
- 登山道ビジョン（全体計画）に関する、主要関係者での集中的な検討の実施（12～2月頃）



情報発信事業について

資料1-3

＜R8年度事業＞

①ホームページ等による情報発信について、サーバーの維持管理を継続し、基本情報の発信を行う。あわせて、Instagram、Facebook、YouTube、を活用し、リアルタイムに各種情報を発信する。）

	HP	SNS
観光情報	投稿なし	ストーリーで情報をシェア
イベント情報	投稿なし	ストーリーで情報をシェア
大雪山報告会、協議会関係者講演等	お知らせでの投稿	FB　投稿・投稿のシェア IG　投稿・ストーリーシェア
登山道通行止め、ヒグマ情報、 開花、紅葉情報	お知らせでの投稿 （土日など、事務局お休みの際は、一旦SNSで投稿）	FB　投稿のシェア IG　ストーリーもしくは投稿
大雪山の景色、業務中の景色。定点観察		ストーリーで情報のシェア。 （こんな場所から大雪山が見える！）

◆SNS（Facebook/インスタグラム ）令和８年度投稿イメージ

月	投稿内容	Instgram　メイングリッド	必須	ルール
4月		Tips・ヒント（ルール）		週1～2回程度 ストーリーズに投稿
5月	大雪山は冬山であること（注意喚起）			
6月	山開き・花情報・RW運行時間変更 コースオープン、登山道を歩く、ストック、残雪の歩き方等	夏山登山の持ち物・服装 （表紙の写真変更）	・ウルップソウ・残雪情報	ルール動画
7月	テント場・水場情報・残雪情報 花情報・携帯トイレブース設置		・裾合平チングルマ	ヒグマ注意
8月	テント場・水場情報・残雪情報 花情報・マイカー情報	秋の登山持ち物・服装（表紙の写真変更）	・マイカー規制	
9月	紅葉情報 登山道閉鎖情報		・裾合平チングルマ・銀泉台	携帯トイレ 登山道歩き方
10月	林道閉鎖・RW運行時間変更	冬の注意喚起（表紙の写真変更）	・初冠雪	大雪山ルール
11月				
12月	スキー場開放			
1月	イベント情報		・ウィンタースポーツ+携帯トイレ	
2月				
3月				

最新の情報はストーリーにも投稿すること。

情報発信事業について

＜R8年度事業＞

② HP改修に向けて、検討を行う。

HP改修の目的・方向性

大雪山国立公園ビジョン
「来訪者に向けた情報発信・・・旅行や登山の準備段階において、大雪山国立公園に入ってから出るまでの間に必要な情報についてインターネット等を通じて、わかりやすく得られる状態。各利用拠点を中心としてネットワークを形成し、質の高い利用体験がいつ、どこで、またはどの施設にコンタクト取ればできるかという情報が発信できる状態」

☑登山者の安全や利用ににかかわる情報や、おすすめしたい情報のリアルタイムな発信

☑利用者が「大雪山に行ってみたい」と思うようなデザイン，また行きたいという行動に必要な情報にアクセスでき、使いやすいHPの改善

☑関係者団体の情報を負担のかからない集約・発信できるシステムの構築。

目指すHPには、様々な立場の方の意見、各団体の連携が必須なため、登山者からのアンケートを行い、各団体にもヒアリングを行い、意見交換を行う必要がある。

HPの現状と課題

◆協議会として山岳利用に関する、登山情報、避難小屋の供用状況、林道の通行状況、ヒグマ出没情報が不足。
→登山者の安全に対する情報について、リアルタイムで情報の発信

◆利用者にとって、必要な情報不足。
→利用者からの問い合わせに対応できるHPとなっていない。（アクセス情報、観光情報、避難小屋情報、ヒグマ情報等）

◆誰を対象としたHPなのか不明瞭
→検索エンジン「大雪山国立公園連絡協議会」では、大雪山国立公園の登山観光情報なのか、協議会の内部のためのHPなのかわかりにくい

◆　検索性・操作性（UI／UX）の向上（必要な情報が見つけにくい。）
→必要な情報がみつけられないまま、HPからは慣れている。

◆　関係団体の情報が効率的に集約・発信できていない。関係者の情報提供方法が煩雑。
→事務局担当者が毎日関係団体のSNS等を確認し、集約・発信している。

HP改修スケジュール

現状のHPについて関係団体にヒアリング行う。WEBを使ったアンケートを行う。	令和８年度
アンケート、ヒアリング結果をまとめ、有識者とともにワーキンググループを作りHP改修案を作成。	令和８年度～９年度
HP改修案をもとに、HP改修、公開	令和９年度

■山岳トイレ等に関する検討課題の整理　　※個別の施設や地点については、別紙資料（山岳トイレ等設置状況・登山口情報）を参照

資料２

（赤字：第8回トイレ部会後最終確認版からの修正箇所）　　2026/6/12　第11回登山道部会

検討課題	主な取組項目及び目標	取組主体	実施・検討状況（～2025(R7)）	現状評価・課題の整理	当面の目標・取組予定（１～５年程度）	中期目標・取組予定（〇年後）	備考
１．山岳トイレ等の利用環境づくり							
(1)大雪山全域での山岳トイレ等の配置計画	・山岳地域におけるトイレ及び携帯トイレブースの設置のあり方について、自然環境及び景観への影響、避難小屋及び野営指定地等との関係性、利用形態及び利用者数、維持管理体制の確保、将来的な利用方針や想定利用数等を総合的に勘案した上で、全体的な配置計画を検討し、自然環境保全及び適正な利用環境を確保する。	事務局	・部会において、山岳トイレ等に関する基本的考え方、検討課題、山岳トイレの設置状況等について整理しつつ、2025(R7)に「大雪山国立公園における山岳トイレの配慮事項」を作成、確定。	・本検討により、部会内での基本的な共通認識に基づく議論が容易になるものと想定 ・今後は、各地区や全域での将来的な利用像を念頭に置きつつ、必要に応じて配置計画あるいは個別課題の議論、認識共有を進めて行けるとよい ・但し、トイレ施設の設置には設置者や管理者が必要であることから、部会内での議論や連携のみでは進展や解決に至るとは限らないことに留意	・「配慮事項」の作成をもって一旦目標達成と捉え、次の目標や評価指標は状況をみて設定。個別課題の議論は、「配慮事項」に示された配置に関する基本的な考え方に基づき、例えば地区や地点を絞って検討を進めることが考えられる ・裏旭野営指定地での携帯トイレブース設置に向けた維持管理体制の検討	・配置計画を通して各山岳トイレ施設の改善等が進み、利用者のトイレ環境に対する満足度と、各施設の適正維持、山岳環境の汚損のない状態の全てが確保されること（10～20年後？）	
(2)山岳トイレ等利用環境改善・普及啓発に関する効果検証及び情報整理	・山岳トイレ等施設設置状況及び利用状況、携帯トイレ普及状況、情報発信の取組状況について指標を設定し、継続的に効果検証する	事務局	・2020(R2)年度～継続実施	・山岳トイレ全般に関する評価とすべく項目整理・再設定を行う（→別資料） ・利用者の意識等、より広範な普及状況の把握・評価を行うには別途調査が必要	・継続して実施しつつ、評価指標として積極的に活用することができるよう、必要・状況により収集項目の見直しや別途調査の実施も検討	・特になし。他の項目による各取組の評価指標として用いる	
２．トイレ施設の維持・改善							
(1)利用状況の把握	・既存施設の再整備や効率的な維持管理を進める上での利用状況の把握	北海道	・2024(R6)：忠別岳避難小屋へのノート設置による利用状況把握調査			・10年以内、極力3～5年程度での各施設の改修や改善実施に繋げられるよう各主体での取組を進め、必要に応じて部会での情報共有や協議を行う	
	・YAMAPを活用した利用者数の推計	北海道大学大学院農学研究院			・YAMAPを活用した利用者数の推計		
(2)汚泥等搬出手法の検討	・定期的な汚泥搬出を可能とするための搬出手法検討・確立 ・白雲岳及び忠別岳避難小屋付帯トイレ再整備に向けては、継続的に実施可能な汚泥運搬等維持管理手法・体制の見通しを得る必要がある。	環境省 北海道 上川町 北海道山岳整備	・高原温泉～白雲岳避難小屋間の物流ドローン試験飛行を実施。運搬は可能だが機材にかかる費用が高く、当該区間のみでは費用対効果が望めない試算結果が得られる（2025(R7)）	・再整備後の汲み取り物搬出の見通しを得るためには、黒岳等他地域も含めた運搬実施体制としていくことが必要と考えらえる。	・黒岳石室等他地域での物流ドローンを用いた運搬試験、実用化検討（2026(R8)） ・検討結果に基づく維持管理体制全般の検討・調整（2026(R8)～） ・白雲・忠別での再整備に向けた省内調整・検討（環境省・2026(R8)～、白雲トイレは汲み取り式を想定）		
３．広報、普及啓発							
(1)山岳域でのトイレの課題や取組状況、携帯トイレ持参・使用に関する情報発信・普及啓発（増加している外国人利用者向けの取組を含む）	・広報媒体の作成、利用拠点施設やWebでの情報発信	事務局	・2024(R6)：携帯トイレ使用方法の動画試作、大連協HP英語サイトおよびグレードマップ英語版に保全ルールや携帯トイレ情報を掲載 ・2025(R7)：使用方法動画制作、チラシ増刷、英語版チラシ制作	・取組範囲を携帯トイレに限定させることなく、広く山岳利用やトイレの状況に関する周知・普及啓発、その中での解決での一手法としての携帯トイレ、という関係性の下で取組を進めるべき。 ・現地での情報発信だけでなく、旅マエでの情報発信に課題あり。インバウンドへの対応にも特に留意。 ・動画等の媒体の整備が進んだので次はそれらの活用。	・内容を随時点検しつつ、整備した媒体の活用を含めて効果的な情報発信を継続する ・2025(R7)年度作成した動画についてシーズン中（６月～１０月）は週1～2回SNSストーリー等に投稿、冬山のシーズンは月1回程度投稿する。協議会全体でSNS動画シェア、拡散に協力いただく ・取組の効果検証手法について検討（動画再生回数、シェア数等の確認等）	・同左。継続性の高い取組として進める。	
	・登山者に対して直接普及啓発することを目標とした、現地での携帯トイレ普及キャンペーン	事務局	・2019年以降、赤岳9合目、中岳温泉、富良野岳登山道、黒岳石室で実施（仮設携帯トイレブース設置、関係者と協働での維持管理・普及啓発活動） ・2025(R7)：富良野岳登山道で継続実施、黒岳・層雲峡地区で山の日キャンペーンの一環として実施	・携帯トイレ持参率は肌感覚でも上昇している中、携帯するだけでなく実際に現地で使用するという部分への普及啓発等の取組が有効と考えられる。 ・一方で、目的がどこにあるのか（例えば、実施箇所でのトイレ施設設置に向けた試行的意味合いが主なのか、あくまで現地での普及啓発の一手法なのか）により次の段階の取組方策も見据えながら実施していくべきでは。	・現地での普及啓発を目的とした、富良野岳登山道でのキャンペーンの継続実施。一定の携帯トイレ持参率が維持されていることから、2027(R9)年度までを目途に終了 ・黒岳石室において、携帯トイレの使用促進を目的としたキャンペーンを継続実施（2026(R8)）	・アンケートの結果や、効果検証及び進捗管理に基づいて取組状況を評価し、取組自体の継続要否を検討（今後５年程度を目安）	
	・トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト	北海道・環境省	・短縮登山口における携帯トイレ配布ボックス設置、痕跡調査、携帯トイレブース設置・効果検証やそれらを通した普及啓発活動を実施。	・南沼野営指定地での痕跡数は少ない数字で推移しており、取組の効果が出ている。	・各取組、効果検証のモニタリングを当面継続	・効果検証及び進捗管理に基づいて取組状況を評価し、取組自体の継続要否を検討（今後５年程度を目安）	
	・啓発資料「山のトイレマップ」の制作・配布	山のトイレを考える会	・毎年大雪山山麓の宿泊施設、ビジターセンター、森林管理事務所等に配備して登山者へ配布。大雪山地域では年間約7,000部を配布予定。	・毎年印刷費や通信費、送付の労力がかかる ・インバウンド向け英語版の周知拡大	・情報更新し周知、配布する（2026(R8)は紙のマップからQRコードによるURL周知への変更を検討）		
(2)携帯トイレ普及パートナーシップ事業	・団体間の相互協力により携帯トイレの利用推進を図る	事務局	・パートナーシップの強化については、大雪山国立公園周辺における拠点施設（駅、空港、観光施設等）にはたらきかけを実施。	・継続的な取組となっているが近年は十分に運用されておらず、事業目的・内容等取組全体の点検も必要	・取組を当面継続	・取組状況の点検・評価を行い、取組自体の継続要否を検討（今後５年程度を目安）	

大雪山国立公園　山岳トイレ等利用環境改善・普及啓発に係る効果検証及び進捗管理

分類	No.	指標	算出方法・基準	2020(R2)年度	2021(R3)年度	2022(R4)年度	2023(R5)年度	2024(R6)年度	2025(R7)年度	2026(R8)年度	最新の値(2025(R7))に関する備考	現状評価・今後の目標
山岳トイレ等施設及びその維持・改善に関すること	1	山岳トイレ設置箇所数	－	5	5	5	5	5	5	5	黒岳石室、白雲、忠別、ヒサゴ、上ホロ（詳細は別紙：山岳トイレ等設置状況を参照）	目標値は特に無し（必要な場所に置かれていることが重要）
	2	うち、適切に処理や管理が行われている箇所数	方式に見合った処理（汲み取り式なら定期的な搬出、バイオ式なら分解）が機能し、その他施設機能の維持、清掃等の管理が継続的に行われている状態	―	―	―	―	―	0	0	全施設で、汲み取り物の搬出や分解機能の維持が行えておらず、それぞれ方策を検討中	各施設に見合った処理方法の改善策等の検討・実施を進め、No.1の山岳トイレ設置箇所数と同数となることを目指す
	3	山岳トイレ又は携帯トイレブース設置検討箇所数	「山岳トイレの配慮事項」資料の、個別検討課題の整理において記載・課題整理を行っている地点数	―	―	―	―	―	3	3	黒岳7合目周辺、沼ノ原大沼、旭岳周辺	地点ごとの検討を通して最終的に0になることを目指す
	4	携帯トイレブース設置箇所数	－	9	10	14	14	12	10	10	「山岳トイレ等設置状況」資料参照	目標値は特に無し（必要な場所に置かれていることが重要）
	5	携帯トイレ回収ボックス設置箇所数	－	11	12	12	12	12	12	12	「登山口別のトイレ関係施設等状況」資料参照	目標値は特に無し（必要な場所に置かれていることが重要）
山岳環境、野営指定地やその周辺に対する影響への評価	6	巡視等１回あたりの野外し尿排出痕跡数：美瑛富士	痕跡数/巡視回数（し尿痕もしくはティッシュ痕の数）	3.7	3.1	2.2	1.6	2.7	2.0			確認数は低い水準で近年推移。引き続きゼロを目指しつつ状況を注視する。
	7	巡視等１回あたりの野外し尿排出痕跡数：トムラウシ	痕跡数/巡視回数（し尿痕もしくはティッシュ痕の数）	7.0	4.0	2.0	2.5	2.0	2.0			確認数は低い水準で近年推移。引き続きゼロを目指しつつ状況を注視する。
携帯トイレ普及状況、入手しやすさ	8	登山用品店等における携帯トイレ販売箇所数	各登山口周辺の携帯トイレ販売箇所の数	-	25	-	28	-	28	28		目標値は特に無し（必要な場所に置かれていることが重要）
	9	大雪山国立公園オリジナル携帯トイレ卸数	例年取りまとめいただいているりんゆう観光さんからの報告数	2525	1655	3083	3058	2231	2400			
	10	携帯トイレ普及パートナー数	パートナーシップ登録団体数	8	8	8	8	8	8	8		登録数に関して目標値は特に無し。取組状況や内容の点検・評価を進める
	11	携帯トイレ認知度（%）	富良野岳の携帯トイレ普及キャンペーンでのアンケート「大雪山全域で携帯トイレの利用をお願いしていることを知っていましたか？」の回答から算出	-	-	-	71.6	77.3	73.3			キャンペーン参加者は認知度が高い層であることにも留意しつつ引き続き効果測定する。最終目標値としては100%としても、それには一般向けの広汎な情報発信・普及啓発が重要。
	12	登山者の携帯トイレ持参率（%）	国有林及び道有林入林簿からの推計	-	38.8	43.7	41.8	54.3	53.1		黒岳・旭岳RWの登山口の利用者が飛びぬけて多いものの持参率は低い	キャンペーン参加者は認知度が高い層であることにも留意しつつ引き続き効果測定する。最終目標値としては100%としても、それには一般向けの広汎な情報発信・普及啓発が重要。
			富良野岳の携帯トイレ普及キャンペーンのアンケート結果から算出	-	-	-	62.4	61.3	74.0			
情報発信	13	大連協FB、登山情報における携帯トイレ関係記事の発信数	毎年6月～10月の記事を対象	25	34	39	41	13	14		事務局投稿9件、協議会関係者投稿シェア5件	携帯トイレに限定せず、山岳/山麓のトイレに関する情報発信全般に枠を広げてもよいのでは。これまでの数値と整合性が取れなくなる場合は別項目立ててでもよい。

※2026(R8)年度の数値については、2026(R8)年5月時点

＜別紙＞大雪山国立公園山岳地域における山岳トイレ等設置状況

2026/6/12　第11回登山道部会

No.	名称	場所	設置年（西暦）	改修年	規模（面積）	基数	国立公園事業執行	設置者	設置方式・構造	管理主体・管理状況	利用者数	課題	対応方針	備考
	＜常設トイレ＞													
1	黒岳石室トイレ	黒岳石室		2003年		2	有	北海道	生物処理方式（コンポスト式バイオトイレ）	・４ブース（うち、現在２ブースは携帯トイレブース） ・上川地区登山道等維持管理連絡協議会と協力し管理、し尿汲み取り等は民間団体に委託（NPOかむい） ・黒岳石室の管理と合わせて日常的に点検・清掃を実施（りんゆう観光） ・通常トイレは利用者協力金500円／回を徴収し、し尿運搬費用に充填 ・2025(R7)：太陽光パネル増設、LED照明設置、Bブースのヒーター4本分稼働（上川地区登山道等維持管理連絡協議会が負担）。雨どい&タンク設置（NPOかむいが負担） ・2026.6　ヘリコプターによる荷降ろし実施（昨年は中止）	2025(R7)利用者数：11,457（携帯トイレブース含む？）	・バイオトイレ処理能力は50回/1ブースとされているが、2025(R7)年においては処理能力をオーバーしている日も多い状況。 ・生物処理が十分機能しておらず、汲み取りが必要。汲み取り後のし尿運搬は、北海道と上川地区登山道等維持管理連絡協議会の費用折半により実施しており、実施に向けて検討しているが、燃料価格等の上昇による予算確保が課題。処理方式の改善や、将来的な再整備時の処理方式を要検討	・2026(R8)年は太陽光パネルを増設し、Bブースの便槽ヒーターを6本とも稼働させ、便槽を加温し本来のバイオ処理を目指す ・モンライト処理水質改善の検討 ・今後も関係者とともに、外国語表記の充実を含めた協力金徴収の取組を進めるとともに、今後の協力金徴収のあり方についても検討を継続する。	
2	白雲岳避難小屋トイレ	白雲岳避難小屋	1985年			2	有	北海道	汲取り式	・上川地区登山道等維持管理連絡協議会と協力し管理 ・白雲岳避難小屋の管理と合わせて日常的に点検・清掃を実施（北海道山岳整備）		・環境省でTSS処理方式を用いた再整備の設計済だが、周辺自然環境への悪影響の可能性を排除できないとの指摘を受けて同処理方式による再整備は取り止め ・今後の再整備に向けて、処理方式の再設定およびその維持管理手法や体制の見通しを得ることが必要	・汲み取り式を想定し、ドローン等による汚泥搬出方法の試験、検討 ・処理方式・管理手法の見通しと併せて、維持管理体制の見通しも確定させていく	
3	忠別岳南避難小屋トイレ	忠別岳南避難小屋	1985年			1	有	北海道	汲取り式	・直営 ・白雲岳避難小屋管理人による巡視時に点検・清掃の支援		同上	・汚泥搬出は冬期のスノーモビル使用が必要と考えられることから、必要な人数・費用の概算を進める ・再整備後の避難小屋を含めた、今後の維持管理の担い手や体制について要検討・調整	
4	ヒサゴ沼避難小屋トイレ	ヒサゴ沼避難小屋	1982年	2019年		1（2穴）	有	北海道	汲取り式	・直営 ・白雲岳避難小屋管理人による巡視時に点検・清掃の支援		・処理方式の改善		
5	上ホロカメットク避難小屋トイレ	上ホロカメットク避難小屋	1980年			2	有	北海道	汲取り式	・直営　維持管理点検１回／月（７月～９月） ・地元山岳会による巡視時に点検・清掃の支援		・処理方式の改善		・
	＜携帯トイレブース・常設＞													
1	黒岳石室携帯トイレブース	黒岳石室	2020年			2	有	北海道	常設トイレ内	・2020年度に、新型コロナウイルス感染防止対策の一環として、携帯トイレ専用ブースを設置 ・上川地区登山道等維持管理連絡協議会と協力し管理 ・黒岳石室の管理と合わせて日常的に点検・清掃を実施				
2	赤岳コマクサ平携帯トイレブース	コマクサ平	2022年			1	無	NPO法人かむい	常設型	・登山道巡視と合わせて定期的に点検・清掃を実施	2025(R7)：436			
3	旭岳石室携帯トイレブース	旭岳石室	2002年	2021年		1	有	北海道	常設型	・東川町や民間団体による巡視時に点検・清掃支援 ・2021(R3)年度に交付金事業で改修実施		・石室を含めた当該場所での今後の設置継続の必要性		
4	美瑛富士避難小屋携帯トイレブース	美瑛富士避難小屋	2019年	-	1.5×0.9=1.35㎡	1	有	環境省	常設型	・美瑛町、美瑛富士トイレ管理連絡会、環境省が2019(R元)年に協定を結び協働で維持管理	2025(R7)：479（手動カウンター）			
5	トムラウシ南沼野営指定地携帯トイレブース	南沼野営指定地	2002年、2019年			2	有	北海道	常設型	・新得山友会に委託	2025(R7)：704（手動カウンター）			
6	ニペソツ山前天狗携帯トイレブース	前天狗野営指定地	2002年			1	無	北海道	常設型	・ひがし大雪自然ガイドセンターに委託				
	＜携帯トイレブース・定期的設置＞													
1	高原温泉エゾ沼携帯トイレブース	沼めぐり登山コース（エゾ沼）	2020年		1.4×2.1=2.94㎡	1	無	環境省	仮設組立型・木造	・ヒグマ情報センター管理運営業務請負者が、沼めぐり登山コースの巡視と合わせて日常的に点検、清掃を実施				
2	高原温泉緑沼携帯トイレブース	沼めぐり登山コース（緑沼）	2021年		1.4×1.9=2.66㎡	1	無	環境省	仮設組立型・木造	・ヒグマ情報センター管理運営業務請負者が、沼めぐり登山コースの巡視と合わせて日常的に点検、清掃を実施				
	＜携帯トイレブース・試行設置＞													
1	赤岳９合目携帯トイレブース	赤岳９合目	2019～2023年		1.1×1.1=1.21㎡	1	-	大雪山国立公園連絡協議会	仮設テント式	・2023(R5)年度設置期間は9/17～25（計９日間）		・携帯トイレ普及宣言推進事業の一環として2023(R5)まで実施。コマクサ平携帯トイレブース等周辺のトイレ施設配置や利用状況を勘案して2025(R7)は未計画。		
2	裾合分岐携帯トイレブース	裾合分岐	2024年			1	-	環境省	セルフ組立式パーテーション	・直営 ・2024(R6)年度に同事業により試行的設置		・旭岳周辺登山道における他の場所でのブース設置の検討に合わせて、当該場所での必要性等について整理が必要		
3	中岳温泉携帯トイレブース	中岳	2019～2023年			1	-	大雪山国立公園連絡協議会	仮設テント式	・2023(R5)年度設置期間は、7/12～8/3、9/8～10/5（計49日間）		・旭岳周辺登山道における他の場所でのブース設置の検討に合わせて、当該場所での必要性等について整理が必要		
4	旭岳９合目携帯トイレブース	旭岳９合目	2022・2023年			1	-	環境省		・2022(R4)～2023(R5)年度に旭岳周辺登山道における携帯トイレブース設置効果検証業務により試行的設置		・旭岳周辺登山道における他の場所でのブース設置の検討に合わせて、当該場所での必要性等について整理が必要		
5	裏旭野営指定地携帯トイレブース	裏旭野営指定地	2023・2024年			1	-	環境省		・旭岳周辺登山道における携帯トイレブース設置効果検証業務により、試行設置とその利用状況、周辺植生の影響調査、野営指定地の利用者数等の調査を実施。	2024(R6)(7/4~9/30)：580（手動カウンター）	・野営指定地のあり方について議論がある。 ・環境省調査業務において、当該地における携帯トイレブース設置の必要性が認められた。借地については道有林と調整済。携帯トイレブースの定期設置に向けた維持管理体制の構築が課題。	携帯トイレブース設置に向けた維持管理体制の検討を継続する。	
6	富良野岳携帯トイレブース	標高1580m地点（通称お花畑）	2023年～			1	-	大雪山国立公園連絡協議会	仮設テント式	・関係機関と協働で管理 ・2024(R6)年度設置期間は6/27～8/19（計54日間）、7/20及び7/21等に携帯トイレ普及キャンペーンを実施	2025(2025(R7))(6/29~8/18)：136（手動カウンター）	・2023(R5)年度から、携帯トイレ普及宣言推進事業の一環として設置。当該場所での必要性等について整理が必要。	一定の携帯トイレ持参率が維持されていることから、連絡協議会の携帯トイレ普及宣言推進事業としての設置は2027(R9)年度までを目途に終了。終了後に継続設置を行いたい団体があれば、事業の移管を行う。	
7	トムラウシ山登山道	カムイサンケナイ川沿い	2022年～			1	-	環境省	仮設テント式	・2022(R4)年度～シーズン中のみ試行的設置（雪月之行）				

●登山口別のトイレ関係施設等状況

2025年12月現在

	場所	市町	避難小屋・山小屋	野営場	トイレ		携帯トイレ回収ボックス		携帯トイレ販売		入山者数（2025(R7)）	備考
登山口	層雲峡	上川	無	有	有		有	設置：環境省 回収：層雲峡を美しくする会	有	○層雲峡ビジターセンター ○黒岳ロープウェイ売店、7合目売店 ○セイコーマート層雲峡店		
	黒岳7合目	上川	有	無	無	→5合目駅舎内 ※トイレがないことが課題として挙げられてるものの、設置者や維持管理体制の確保が課題。「大雪山国立公園における山岳トイレの配置基準について」参照。	無	→層雲峡	無	→層雲峡	38,000	
	銀泉台	上川	無	無	有	マイカー規制実施期間中は仮設式も設置	有	設置：上川町（山のトイレを考える会寄贈） 回収：層雲峡を美しくする会	無	○マイカー規制シャトルバス発着場（9月中旬）	9,900	
	大雪高原温泉	上川	有	無	有		有	設置：上川地区登山道維持管理連絡協議会 回収：層雲峡を美しくする会	有	○大雪高原山荘 ○ヒグマ情報センター ○マイカー規制シャトルバス発着場（9月下旬）	2,000（緑岳コース） 3,700（沼めぐり登山コース ※2024(R6)）	
	クチャンベツ	上川	無	無	有	仮設式、1ブースは携帯トイレ用	無	一般廃棄物収集範囲外のため設置困難とされている	無			
	愛山渓温泉	上川	有	無	有	仮設式	有	設置・回収：上川町	有	○愛山渓倶楽部	1,700（愛山渓温泉登山口） 600（松仙園登山口）	
	旭岳温泉	東川	無	有	有		有	設置・回収：東川町	有	○旭岳ビジターセンター ○旭岳ロープウェイ（姿見駅売店） ○ホテルベアモンテ ○ホテルディアバレー ○セイコーマート東川店 ○道の駅ひがしかわ・道草館		
	姿見	東川	有	無	有		無	→旭岳温泉	無	→旭岳温泉	11,000（姿見の池・裾合平方面） 32,000（姿見の池・旭岳方面）	
	天人峡	美瑛	無	無	有	仮設式	無		無		500	
	白金温泉望岳台歩道登山口（白金観光センター）	美瑛	無	有	有		有	設置・回収：美瑛町（山のトイレを考える会寄贈）	有	○ホテルパークヒルズ ○湯元白金観光温泉ホテル ○大雪山白金観光ホテル ○白金観光センター		
	美瑛富士登山口	美瑛	無	無	無		無		無		700	
	望岳台	美瑛	無	無	有		有	設置・回収：美瑛町	無			
	吹上温泉	上富良野	無	有	有		有	設置・回収：上富良野町	有	○セイコーマート 上富良野宮町店 ○白銀荘	2,500（十勝岳登山口・美瑛岳方面 ） 13,000（十勝岳登山口・十勝岳方面 *2024(R6)）	
	十勝岳温泉	上富良野	無	無	有		有	設置・回収：上富良野町（山のトイレを考える会寄贈）	有	○十勝岳温泉凌雲閣	16,000（安政火口）	
	原始ヶ原登山口	富良野	有	無	有		無		無	○ふらの観光協会	500	
	十勝岳新得コース	新得	無	無	無		無		無		0～50	
	トムラウシ温泉	新得	無	有	有		有	設置：北海道 回収：新得町	有	○トムラウシ温泉東大雪荘 ○セイコーマート屈足店 ○セブンイレブン新得町南店	200	
	トムラウシ短縮コース	新得	無	無	有		有	設置：北海道 回収：新得町	有	○同上 ○南沼汚名返上プロジェクトとして登山口に配布ボックスを設置（2022(R4)～、1つ500円の協力金）	3,400	
	ユニ石狩岳登山口	上士幌	無	無	無		無		無		200	
	シュナイダーコース	上士幌	無	無	有	仮設式	無		無		1,100（石狩岳登山口）	
	ニペソツ山十六の沢コース	上士幌	無	無	無		無		無			
	ニペソツ山幌加温泉コース	上士幌	無	無	有	仮設式	有	設置：北海道 回収：上士幌町	無		1,400	
	ウペペサンケ山糠平コース	上士幌	無	無	無		無		有	○ひがし大雪自然館 ○セイコーマートうえだ上士幌店	600	
	天宝山	上士幌	無	有	有		無		有	同上		
	白雲山士幌側	士幌	無	有	有		無		無		900	2023(R5)時のメモ： 以下然別湖周辺の山については行程が短いことから、登山口でトイレを済ませてもらうことの啓発が重要
	白雲山然別湖側	鹿追	無	無	有	仮設式	無		無		1,800	
	南ペトウトル山	鹿追	無	無	有		無		無		100	
	東ヌプカウシヌプリ	鹿追	無	無	無		無		無		1,700	
	西ヌプカウシヌプリ	鹿追	無	無	有		無		無			

入山者数は、環境省による登山道利用者数調査（https://www.env.go.jp/park/daisetsu/data/tozandoriyosya2016.html）より引用した、登山者カウンターや入林簿等による6月～10月の推計値。

登山道維持管理作業計画・報告について

＜現況＞
- ✓「大雪山国立公園における歩道等維持管理作業実施手順マニュアル」にて、補修等維持管理作業の案件登録（計画の共有）及び結果記録（報告の共有）を定めているが、あまり運用が進んでいない。
- ✓作業計画・結果の情報共有や公表の必要性は、前回登山道部会・登山道補修技術検討会にて意見があり、確認されたところ。
- ✓一方で、マニュアルと併せて整備が検討されていた「大雪山国立公園登山道維持管理データベース」（協議会HP内に掲載中）については、実施内容の再検討が必要であり、取扱を保留中。

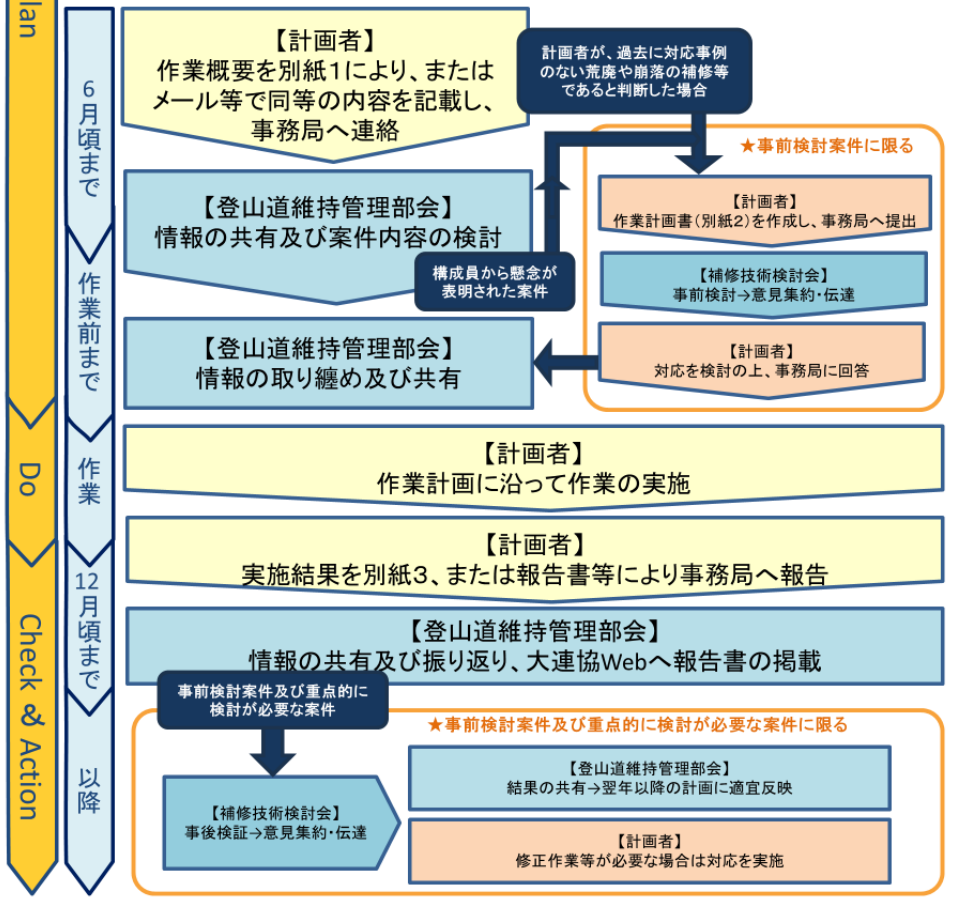
＜今シーズンの方針＞
- ✓維持管理作業の計画及び報告を事務局で情報収集し、部会構成員内で共有する。
- ✓計画については5月末より情報収集中（現時点での集計：次頁）。なお、歩道の刈払いや標識の補修はマニュアル上では案件登録不要とされているが、本年は区別せず計上している。
- ✓シーズン終了にかけて報告の情報収集も実施し、大連協HPでの報告書の公開も実施予定（次々頁）。
- ✓上記の流れ及び既存のマニュアルに基づく実施フローは右図を予定しているが、今後の実施状況も踏まえつつ、歩道等維持管理作業実施手順マニュアルの改定を冬期の登山道部会・補修技術検討会にかけて実施予定。

作業実施手順フロー図

資料3

【関係法令等に基づく手続の確認・実施】 ※マニュアルp.2～3

手続の種類	国立公園事業	
	執行済	未執行
自然公園法に基づく許認可	要手続の場合は執行者が主体となり実施 ⇒作業内容について執行者へ相談	要手続の場合は作業者が主体となり実施 ⇒作業内容について環境省へ相談
土地所有者/管理者の許可や同意	事業執行者＝土地管理者 ⇒作業内容について執行者へ相談	作業者が主体となり許可等を得る ⇒作業内容について土地所有者／管理者へ相談
他法令に基づく手続（保安林、文化財）	手続要否の確認を含め、執行者と相談のうえ対応	手続要否の確認を含め、作業者において対応



登山道維持管理作業計画・報告について

2026 歩道の維持管理作業（補修等）作業計画案件

	計画者名	作業計画箇所	課題	作業内容の方向性	作業日程（予定）	備考
1	富良野山岳会	原始ヶ原沢コース 不動の滝上流	増水により橋が流される	丸太橋復旧作業：丸太は流れ止めを付けてあるため、元の位置に設置し、手すりワイヤーを張る。	6月7日	・作業完了
2	Asahidake Trail Keeper 藤このみ	姿見の池園地	洗掘によるガリー化と石積みの崩壊、周辺植生の後退	・段差処理を伴う床止め ・植生復元を目的とした法面施工	8月	・作業内容は昨シーズンの続き
3	上川中部森林管理署	高原温泉小泉岳線		GSS職員等による簡易な修繕等	6月下旬～ 10月上旬	
4	上川中部森林管理署	天人峡化雲岳線		GSS職員等による簡易な修繕等	6月下旬～ 10月上旬	
5	然別自然休養林保護管理協議会	然別湖周辺登山道	ササ被り	登山道整備（ササ刈り）	4回実施予定	・然別湖ネイチャーセンター参加予定
6	士幌町観光協会	白雲山登山道（士幌高原側）	安全のため専門業者に委託しているが、費用負担が大きい。	刈払い機による草刈り	6月8日～12日のどこか	・然別自然休養林保護管理協議会の事業として実施
7	十勝岳連、新得山岳会	十勝岳新得側登山道	・接続道の荒廃 ・登山口までの林道が決壊、補修待ち	登山道整備（草刈り）、支障枝の伐採	8月下旬～9月	・別途、トムラウシのヤシネット荷揚げに協力予定
8	新得山岳会	トムラウシ山線　カムイ天井～コマドリ沢	雨天後、歩道の泥濘化	歩道排水流末整備、木道ゲタの補修	6月～9月	
9	道岳連　自然保護	トムラウシ山　南沼周辺	歩道の洗堀	ヤシネットの荷揚げ	7月11～12日	
10	北海道	中岳裾合線	木道補修、登山道脇の裸地化	木道撤去、グレーチング敷設、ヤシネット等による保護	8月～9月末	R4から継続、最終年
11	北海道	銀泉台白雲岳線(赤岳)	ガリー浸食	ヤシ土嚢等による法面保護	8月～9月末	R5から継続
12	北海道	ヤンベタップ五色岳線(登山口から沼の原入口)	ガリー浸食	現場資材等による補修	8月～9月末	R6から継続
13	北海道	層雲峡勇駒別線(黒岳周辺)	ガリー浸食等	ヤシ土嚢等による法面保護	8月～9月末	
14	環境省	三十三曲	浸食	段差処理、導流工補修	7月上旬～9月末	
15	環境省	六ノ沼～当麻乗越、ピウケナイ沢～裾合分岐	浸食、木道破損	木道工、土留工	7月上旬～9月末	
16	環境省	当麻乗越～姿見の池	ササ被り	ササ払い	7月上旬～9月末	
17	環境省	松仙園線	ぬかるみ、浸食	木道工、プール工	7月上旬～9月末	R3から継続
18	環境省	間宮岳～中岳分岐～中岳温泉	浸食	土留工、導流工	8月～9月末	
19	環境省	ヒサゴ沼周辺歩道	浸食	床止工・法止工・分散排水工、土のう床止工	8月～9月末	
20	環境省	トムラウシ山線	浸食、倒木、ササ被り	浸食対策方法は未定、倒木処理、ササ刈り	8月～9月末	
1	北海道大学地球環境科学院・弘前学院大学（渡辺悌二，小林勇介）	黒岳石室周辺	補修箇所の作業効果の検証	ポール・フォトグラフィによる登山道表面形態の写真撮影	7月から8月末	侵食量の経年変化の把握および補修箇所の作業効果の可視化を行う
2	北海道大学地球環境科学院（渡辺悌二，早川裕一，王婷）	北大雪（平山分岐付近）	トレランによる登山道および周辺植生への影響	ポール・フォトグラフィ，UAVによる登山道表面形態および周辺植生の写真撮影	6月および7月末	トレラン大会前後で登山道侵食および植生に影響が生じているかを把握する

（注）
・本様式によらなくても問題ありませんが、メール等で作業計画箇所、課題、作業内容の方向性、作業日程（予定）を事務局にお知らせ下さい。
・適宜、写真や図等を添付していただいても構いません。
・行が不足する場合は追加をお願いします。

登山道維持管理作業計画・報告について

＜協議会HPでの報告書等共有・公開案＞

✓既存の「大雪山国立公園登山道維持管理データベース」とは別にページを設け、案件名及び報告書等を掲載。

✓収集済みの昨年度分の報告書から順次掲載していく予定。



目的

登山道の補修やその結果を登山道関係者で共有して検証することで維持管理作業の技術的な品質の確保と向上を図り、大雪山国立公園の登山道の荒廃問題を解決することを目指します。

令和8年度

・上川地区登山道補修業務

・東川地区・沼ノ平姿見の池線　登山道補修及び資材荷揚げ業務

・　：

・　：

令和7年度

・上川地区登山道補修業務

・東川地区・沼ノ平姿見の池線　登山道補修及び資材荷揚げ業務

・　：

・　：

大雪山登山に係るヒグマ情報収集・提供について

資料4

＜過年度の取組＞

◆ 登山口や分岐で掲示する貼り紙のひな形（右写真）作成、活用（2024年～）
◆ 黒岳・旭岳地区の一部関係施設・機関間の相互情報共有、貼り紙等対応協力依頼（2024年～）
◆ 大雪山全域での情報収集・提供を想定した、関係施設・機関に対するヒアリング・アンケート、有識者ヒアリング（2025年度末）

＜現況の課題＞

■ 登山者に安全な行動を促すため、ヒグマ情報収集・提供体制のさらなる強化が必要
■ 登山道の多くがつながっており、関係する登山口が多数にわたるため、大雪山全域での取組とすることが必要

＜2026年シーズンの取組：一元的情報収集・提供の施行＞

◆ 大雪山の山岳域全域を対象とした、一元的なヒグマ情報収集・提供を試行的に実施
◆ 対応人員を毎日1名配置し、関係施設・機関からの情報収集、情報発信媒体への掲載を随時実施

＜取組イメージ＞

山岳関係施設・機関＜大雪山全域＞

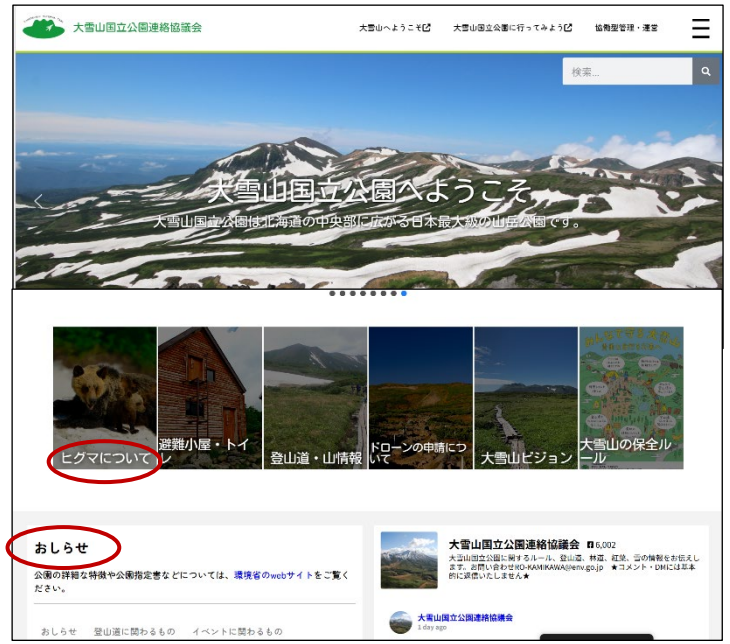
✓ビジターセンター・ロープウェイ・温泉旅館等登山口の施設、避難小屋、山岳ガイド協会、観光協会、自治体など
✓把握した情報を各自発信/対応員へ情報提供
✓登山口や施設内への注意喚起等掲示の協力



情報収集・発信対応員＜毎日1名＞

✓大雪山山岳域のヒグマ情報を収集、要提供情報の選定
✓関係施設・機関との連絡…情報収集や要対応時の対応依頼
✓情報発信媒体（大連協HP等を想定）による一般向け周知

webでの情報提供





情報の現地掲示例

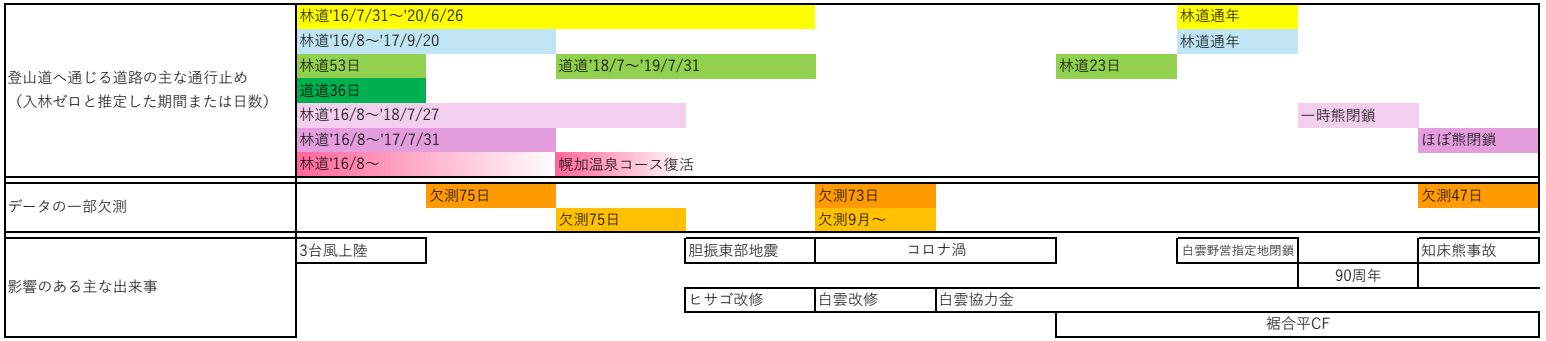
大連協HP・SNSを活用（予定）

資料５

【大雪山国立公園登山道等利用者数10年の傾向】

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年			
＜計測地点・入山者数(概数)＞	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	＜10年間の傾向＞	＜計測方法＞	＜計測期間＞
黒岳登山口	35,000	27,000	29,000	19,000	22,000	18,000	17,000	14,000	40,000	38,000	コロナ前に戻り更に増加傾向	熱感知式CT	6月下-10月上
銀泉台登山口（第一花園下）	11,000	12,000	10,000	9,000	7,900	9,600	11,000	9,100	9,400	9,900	コロナ渦を除き9,000-12,000で推移	熱感知式CT	6月下-10月上
高原温泉登山口（緑岳コース）	3,500	3,600	3,100	3,800	3,700	2,800	2,900	1,900	2,900	2,000	4,000弱から3,000弱へ減少傾向	熱感知式CT	6月下-10月上
高原温泉登山口（沼めぐり登山コース）	4,100	5,700	6,300	6,100	3,900	5,100	5,700	4,800	3,700	200	熊問題なければ4,000-6,000で推移	利用者数資料	6月中-9月上
クチャンベツ登山口	800	0	0	0	3,200	2,000	1,500	0	1,500	1,000	1,000-2,000台で推移または減少傾向	熱感知式CT	6月中-10月上
松仙園登山口	－	－	－	－	1,000	1,200	700	600	700	600	'20年供用直後に1,000余、後600-700で推移	熱感知式CT	7月中-9月下
愛山渓温泉登山口	1,600	2,200	0～50	1,700	2,000	2,000	2,000	1,300	2,100	1,700	2,000前後で推移	熱感知式CT	6月下-10月上
姿見の池（裾合平方面）	8,700	13,000	10,000	12,000	6,600	8,400	9,000	12,000	11,000	11,000	コロナ前に戻り11,000-12,000で推移	熱感知式CT	6月中-10月中
姿見の池（旭岳方面）	22,000	欠測	23,000	30,000	21,000	8,200	26,000	28,000	31,000	32,000	コロナ前に戻り更に増加傾向	熱感知式CT	6月中-10月中
天人峡登山口	1,200	300	700	400	500	700	400	600	500	500	500前後で推移	人感式カメラ	6月中-10月中
美瑛富士登山口	900	800	1,000	900	1,200	1,200	1,400	900	2,100	700	1,000前後で推移	人感式カメラ	6月中-10月中
十勝岳登山口（美瑛岳方面）	700	1,100	1,900	1,500	2,000	1,400	1,100	1,500	欠測	2,500	1,000-2,000で推移	熱感知式CT	6月上-10月上
十勝岳登山口（十勝岳方面）	2,900	13,000	11,000	11,000	8,500	8,500	10,000	8,700	13,000	7,000	7,000-13,000で推移	熱感知式CT	6月上-10月上
十勝岳温泉（安政火口）	－	10,000	1,900	10,000	12,000	14,000	19,000	19,000	19,000	16,000	10,000から19,000へ増加傾向	熱感知式CT	6月下-10月中
原始ヶ原登山口	－	300	400	400	200	700	1,400	500	500	500	500前後で推移	人感式カメラ	6月上-10月上
十勝岳新得側登山口	100	0～50	0～50	50～100	100	50～100	50～100	0	0～50	0～50	50前後で推移	国有林入林簿	5月下-10月下
トムラウシ山（短縮コース）登山口	1,500	3,100	2,400	2,600	2,300	2,900	1,900	3,300	3,300	3,400	3,000弱から3,000超へ増加傾向	赤外線式CT	5月下-10月中
トムラウシ山（温泉コース）登山口	200	100	100	100	100	200	500	200	200	200	200前後で推移	熱感知式CT	5月下-10月中
石狩岳登山口	300	0	200	500	200	1,100	800	1,000	1,000	1,100	1,000前後で推移	熱感知式CT	5月下-10月中
ユニ石狩岳登山口	－	200	400	200	50～100	300	200	200	200	200	200前後で推移	国有林入林簿	5月中-11月上
ニペソツ山登山口	1,100	－	1,100	1,100	1,100	1,300	1,000	1,100	1,300	1,400	1,000超で推移	熱感知式CT	5月下-10月中
ウペペサンケ山糠平コース登山口	300	－	－	－	－	300	50～100	100	600	600	300から600へ増加傾向	熱感知式CT	5月下-10月上
白雲山士幌側登山口	700	600	700	600	700	900	700	700	800	900	1,000弱で推移	国有林入林簿	6月上-10月下
白雲山鹿追側登山口	1,400	2,600	2,500	2,300	2,800	3,000	1,700	2,300	1,900	1,800	2,000前後で推移	国有林入林簿	6月上-10月下
東ヌプカウシヌプリ登山口	900	900	1,100	1,400	1,900	2,200	1,700	1,600	1,800	1,700	1,000弱から2,000弱へ増加傾向	国有林入林簿	6月上-10月下
南ペトウトル山登山口	0～50	100	100	300	300	400	200	200	200	100	200前後で推移	国有林入林簿	6月上-10月下

「０」＝推定人数ゼロ、「欠測」＝データなし、「－」＝カウンターの設置なし



	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年			
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	10年間の傾向	計測方法	計測期間
黒岳ロープウェイ[人]	241,575	273,022	227,363	228,117	117,967	95,007	147,702	194,548	219,778	197,147	全体的には減少傾向か	利用者数資料	6月-10月
黒岳石室　　[人]	1,302	1,316	1,265	1,016	0	302	621	687	716	744	全体的には減少傾向か	利用者数資料	6月下-10月初
黒岳野営指定地　[人]	1,349	1,182	1,118	1,147	0	1,267	1,316	1,400	1,227	1,061	全体的には横ばいか	利用者数資料	6月下-10月初
白雲岳避難小屋　[人]	1,125	1,259	1,210	1,183	69	907	1,141	775	1,025	910	全体的には減少傾向か	利用者数資料	6月下-9月末
白雲岳野営指定地[人]	1,153	1,125	1,107	868	55	1,377	1,012	292	994	768	全体的には減少傾向か	利用者数資料	6月下-9月末
南沼野営指定地　[張り]	－	324	308	469	302	223	422	429	439	497	年により調査日数が不定で傾向を言えない	定点カメラ	7月上-9月下

●登山者カウンターでの計測における数値の考え方、その他留意事項

1. 計測手法ごとに実数に対して多い又は少ない傾向にある等計測値の特性が異なること、同じ計測手法であっても熱感知式カウンターの場合は場所により誤差が異なることも考慮に入れて、次のように取り扱った。
   (1) 登山口ごとに、月別にカウントした生データの値を記入した。登山口ごとの年間合計と、月別の合計値は、これらの値を単純に足し合わせた値である。
   (2) 明らかなエラー値については、除去した。
   (3) (1)で求められた値のそれぞれについて、次のように表記した。
      ア　1000 以上の数値については、有効数字を左２桁として、３桁目を四捨五入した。
      イ　100～999 の数値については、10 の位を四捨五入した。
      ウ　0～39 の数値については「0～50 程度」、40～60 の数値については「40～60 程度」、61～99 の数値については「50～100 程度」と表記した。
   (4) 上記の操作を行ったため、次の点に注意が必要である。
      ア　登山口ごとの各月別のカウント値の合計と登山口ごとの年間のカウント値の合計は一致しない。
      イ　各月の登山口ごとの人数の合計と、各月の合計の人数は一致しない。
2. 登山者カウンターは、雪解け後、できる限り早い時期に設置しようとしているため、設置以前に入山した登山者は把握できない。積雪により登山者カウンターが回収することができない可能性があるため、回収を急いだ登山口ついては、撤去後の登山者は把握できない。
3. 参考
   (1) 銀泉台（第一花園下）には、銀泉台（第一花園）のみを探勝した人の数が含まれている。
   (2) 姿見の池（裾合平方面）と姿見の池（旭岳方面）には、姿見の池周回コースのみを散策した者の数は含まれていない。
   (3) 登山者カウンターや入林簿の設置期間に関わらず、6～10 月を集計した。
4. 登山コース、登山口に至る道路の主な通行止め
   (1) クチャンベツ登山口に至る林道　　ア　2016 年 7 月 31 日から 2020 年 6 月 26 日まで　　イ　2023 年シーズン
   (2) トムラウシ山登山口に至る道路
      ア　2016 年、トムラウシ山両登山口に至る道道忠別清水線が 8 月 20 日から 27 日、30 日から 9 月 26 日まで。トムラウシ山短縮口に至るユートムラウシ林道・ユートムラウシ第二支線林道が 8 月 20 日から 10 月 11 日まで
      イ　2022 年、トムラウシ山短縮口に至るユートムラウシ林道・ユートムラウシ第二支線林道が 8 月 16 日から 9 月 7 日まで
   (3) 十勝岳新得側登山口に至る林道　　ア　2016 年 8 月から 2017 年 9 月 20 日まで　　イ　2024 年シーズン
   (4) ユニ石狩岳登山口に至る林道が 2016 年 8 月から 2017 年 7 月 31 日まで。
   (5) 石狩岳登山口に至る林道が 2016 年 8 月から 2018 年 7 月 27 日まで。
   (6) ニペソツ山十六の沢コース登山口に至る林道が 2016 年 8 月から通行止めとなり、2018 年、幌加温泉コースが復活
   (7) ウペペサンケ登山口に至る林道
      ア　2016 年 8 月から通行止め　　イ　有志により 2020 年に登山道のササ刈りが行われ利用が見込まれたため 2021 年から調査を再開
      ウ　2021 年 9 月に短絡路が開削され一部がカウンター前を通らなくなった。　　エ　2024 年から合流点にカウンターを移設
   (8) 愛山渓温泉へ至る道道が 2018 年 7 月初旬から 2019 年 7 月 31 日まで。
   (9) 2020 年、松仙園登山道を供用開始。毎年 7 月 14 日から 9 月 30 日まで
   (10)　2025 年、高原温泉登山口（沼めぐり登山コース）は、ヒグマ出没により全面通行止め。開館 5 日間の利用者数
5. 主な誤検知の処置　　(1) 2016 年、姿見の池（裾合平方面）は、10 月から 166310 を除外　　(2) 2017 年、十勝岳登山口（美瑛岳方面）は、9 月～10 月から 2,701,838 を除外
6. 機器の故障による欠測
   (1) 2017 年、姿見の池（旭岳方面）は、機器の不具合により欠測
   (2) 2017 年、天人峡登山口の人感センサー式カメラは、マイクロ SD カードやカメラの故障や不具合により延べ 75 日間欠測
   (3) 2018 年、十勝岳温泉（安政火口）は、カウンター故障のため 75 日間欠測
   (4) 2020 年、原始ヶ原登山口はトレイルカメラと SD カードが故障のため、延べ 73 日間欠測
   (5) 2020 年、石狩岳登山口は電圧低下のため、9 月上旬から欠測
   (6) 2025 年、十勝岳登山口（十勝岳方面）は、カウンター不具合のため 47 日間欠測

資料６

令和８年６月１２日
山のトイレを考える会

紙のトイレマップからＱＲコード電子トイレマップへ

令和元年（２０１９年）から紙の「北海道・山のトイレマップ」を北海道全体で毎年約２０箇所に配備。約１０,０００部（大雪山国立公園は１４箇所、約７,０００部）配布してきた。

紙のマップは印刷費用、郵送料、送付する労力もかかる。７年間配布して、山のトイレや携帯トイレブース、そして回収ボックスの位置が、それなりに登山者に認知されてきたこともあり、今年度から紙のトイレマップの配備を止め、ＱＲコードを周知して、スマホで見ることができる方式に切り替えることにした。

トイレマップのＵＲＬにＱＲコードでアクセスする電子マップは、日本語のほかインバウンド登山者向けに英語版も見ることができるようにした。

Ａ５版カーブスタンドに説明文とＱＲコードを掲示。それだけではなかなかアクセスしてもらえないと考え、隣に「山のトイレマナーカード」を名刺サイズのアクリルケースに入れ配備することとした。





電子マップスタンドとマナーカードの配備



マナーカード（表）



マナーカード（裏）



Ａ５版カーブスタンドのトイレマップの説明

配備箇所は全道で１５箇所、配備完了時期は６月下旬を予定している。

〔大雪山国立公園〕

旭岳ビジターセンター、旭岳ロープウェイ姿見駅、層雲峡ビジターセンター、
層雲峡ロープウェイ駅舎、愛山渓温泉、高原温泉ヒグマ情報センター、
白雲岳避難小屋、十勝岳望岳台シェルター、白銀荘、凌雲閣、ひがし大雪自然館

〔その他〕

知床自然センター、知床羅臼ビジターセンター、知床世界遺産センター、
利尻町立郷土博物館

以　上

大雪山国立公園連絡協議会
表大雪地域登山道維持管理部会及び東大雪地域登山道維持管理部会規約

（趣　旨）

第１条　本規約は、大雪山国立公園連絡協議会規約第 10 条第１項の規定に基づき、表大雪地域登山道維持管理部会及び東大雪地域登山道維持管理部会の組織及び運営に必要な事項を定めるものとする。

（目　的）

第２条　本部会は、大雪山国立公園内の登山道の荒廃等の課題及びその対策について関係者で協議し、もって登山道の適正な維持管理に資することを目的とする。

（活動内容）

第３条　本部会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

（１）登山道の整備及び維持管理並びにそれに関連する登山道の利用や登山道周辺の自然環境等に関する情報交換、連絡調整

（２）登山道の荒廃等の課題及びその対策に必要な事業

（３）その他、前条の目的を達成するために必要な事業

（構　成）

第４条　本部会は、別表に掲げる構成員及びオブザーバーをもって構成する。また、必要に応じて、検討の方向性を示し有効な議論を導くための役割をとして、コーディネーターをおくものとする。

（大雪山国立公園連絡協議会への出席）

第５条　本部会の構成員は、大雪山国立公園連絡協議会に出席し、第３条に規定する事業の報告や意見を述べる。

２　前項の出席者は２名以内とし、部会において選任する。任期は１年とする。

（運　営）

第６条　本部会は、事務局が招集し、事務局員が議事進行を務める。

２　本部会を年２回程度開催し、必要に応じて随時、臨時部会を開催する。

（事務局）

第７条　表大雪地域登山道維持管理部会の事務局を大雪山国立公園管理事務所に、東大雪地域登山道維持管理部会の事務局を上士幌管理官事務所に置く。

２　事務局は、会の庶務を行う。

３　表大雪地域登山道維持管理部会の事務局員は大雪山国立公園管理事務所及び東川管理官事務所職員が、東大雪地域登山道維持管理部会の事務局員は上士幌管理官事務所職員がその任にあたる。た

だし、事務局の業務を請負することを妨げない。

4　事務局員は、大雪山国立公園連絡協議会に出席し、第５条第１項に基づき出席する者を補佐する。

（会　計）

第８条　本部会の運営及び事業の実施に必要な経費は、大雪山国立公園連絡協議会の経費を充てる。

（その他）

第９条　本部会は、大雪山国立公園内の登山道の適正な維持管理のために、関係するその他の協議会との連携及び協力を図る。

付　則　この規約は令和２年６月８日から施行する。

付　則　この規約は令和２年 11 月４日から施行する。

付　則　この規約は令和３年５月 14 日から施行する。

付　則　この規約は令和４年５月 13 日から施行する。

付　則　この規約は令和６年５月 17 日から施行する。

付　則　この規約は令和７年５月９日から施行する。

付　則　この規約は令和８年５月８日から施行する。

別表

表大雪地域登山道維持管理部会

構成員

分野	名称
関係行政機関	北海道地方環境事務所 上川中部森林管理署 上川南部森林管理署 北海道上川総合振興局 富良野市 上川町 東川町 美瑛町 上富良野町 南富良野町
維持管理関係団体 利用・環境教育関係団体	Asahidake trail keeper NPO 法人かむい NPO 法人大雪山自然学校 勤労者山岳連盟（道央地区） 合同会社北海道山岳整備／一般社団法人大雪山・山守隊 山樂舍 BEAR 層雲峡ビジターセンター 大雪山倶楽部 大雪山国立公園パークボランティア連絡会 TREE LIFE 富良野山岳会 北海道山岳ガイド協会（表大雪地区）
自然保護関係団体	大雪と石狩の自然を守る会 山のトイレを考える会
調査・研究関係	山岳レクリエーション管理研究会 北海道大学　渡邉 悌二名誉教授 北海道大学大学院農学研究院　愛甲 哲也教授 福山市立大学都市経営学部都市経営学科　澤田 結基教授

オブザーバー

分野	名称
維持管理関係団体 利用・環境教育関係団体	旭川勤労者山岳会 ガイドオフィス風 株式会社りんゆう観光

	上川山岳会 上富良野十勝岳山岳会 黒松内銀竜草の会 公益社団法人日本山岳会北海道支部 ワカサリゾート株式会社
自然保護関係団体	北海道高山植物保護ネット
調査・研究関係	

※関係行政機関以外は、分野ごとに 50 音順

東大雪地域登山道維持管理部会

構成員

分野	名称
関係行政機関	北海道地方環境事務所 十勝西部森林管理署東大雪支署 北海道十勝総合振興局 士幌町 上士幌町 鹿追町 新得町
維持管理関係団体 利用・環境教育関係団体	NPO 法人かむい NPO 法人ひがし大雪自然ガイドセンター 合同会社北海道山岳整備／一般社団法人大雪山・山守隊 山樂舎 BEAR 新得山岳会 大雪山国立公園パークボランティア連絡会 十勝山岳連盟
自然保護関係団体	
調査・研究関係	北海道大学　渡邉 悌二名誉教授 北海道大学大学院農学研究院　愛甲 哲也教授 福山市立大学都市経営学部都市経営学科　澤田 結基教授

オブザーバー

分野	名称
維持管理関係団体 利用・環境教育関係団体	株式会社北海道ネイチャーセンター 公益社団法人日本山岳会北海道支部 北海道山岳ガイド協会（東大雪地区） ボレアルフォレスト
自然保護関係団体	
調査・研究関係	

※関係行政機関以外は、分野ごとに 50 音順

■大雪山国立公園における山岳トイレの配慮事項

【目的・主旨】

山岳域全体での山岳トイレ施設の配置に関して配慮すべき項目を設定･整理することで、山岳トイレの諸課題や改善策、個別の地点や施設についての議論を進めていく上で土台となる共通理解を形成することを目的とする。

また、個別の施設の設置や改修を検討する際に、配慮すべき事項の指標として活用する。

【留意事項】

・配慮すべき項目への適合度が高い場合に必ず配置を検討するものではない。
・現状の避難小屋及び野営指定地等の位置や規模は必ずしも前提とせず、それらの適切さについても将来的には考慮が必要。

【配慮すべき項目】

１．自然環境や景観への影響の配慮
1-1 景観及び自然環境の保全が主目的であること
1-2 設置物が展望方向等、風致景観上の支障になる位置・規模ではないこと
1-3 設置によって脆弱な生態系への影響が生じる場所ではないこと
1-4 沼・沢・湿地・水場や流水による汚染など、し尿の負荷をかけてはいけない場所に考慮

２．維持管理体制の確保
2-1 設置場所に応じた適切な処理方法等を採用できること
2-2 処理方法等に応じた適切な維持管理体制が確保できること

３．位置関係や利用状況の考慮
3-1 登山口／歩道の起点
3-2 宿舎／避難小屋／野営場／園地／休憩所／ロープウェイ駅舎等施設（公園事業）
3-3 野営指定地／休憩ポイント／分岐
3-4 大雪山グレード（利用体験ランクの低い数字に考慮）
3-5 利用者数を考慮

４．携帯トイレの入手・回収
携帯トイレの入手・回収体制を整えることが望ましい

■項目の解説

１．自然環境や景観への影響の配慮

1-1 景観及び自然環境の保全が主目的であること

植生の悪化、踏み分け道の発生等、自然環境へ悪影響が発生している箇所の保全を主目的とする。

1-2 設置物が展望方向等、風致景観上の支障になる位置・規模ではないこと

設置によって主要な展望方向への眺望を阻害する位置・規模とならないようにする。

1-3 設置によって脆弱な生態系への影響が生じる場所ではないこと

高山植物帯など、施設の利用や設置そのものによって生態系への影響が懸念される場所は避ける。

1-4 沼・沢・湿地・水場や流水による汚染など、し尿の負荷をかけてはいけない場所に考慮

し尿による汚染で自然環境や公園利用者への悪影響が懸念される場所、融雪等の流水によってし尿が流される場所は避ける。

２．維持管理体制の確保

2-1 設置場所に応じた適切な処理方法等を採用できること

設置場所における利用人数や利用頻度の想定、及び自然環境の状況に基づき、適切な処理方式や能力を選定する。

2-2 処理方法等に応じた適切な維持管理体制が確保できること

常設トイレ及び携帯トイレブースの使用説明・巡回・清掃頻度、これらの作業時の安全確保など、適切な維持管理体制を構築する。

３．位置関係や利用状況

3-1 登山口／歩道の起点

天人峡温泉や愛山渓温泉など、登山前後に使用できる位置。

3-2 宿舎／避難小屋／野営場／園地／休憩所／ロープウェイ駅舎等施設（公園事業）

十勝岳避難小屋、黒岳リフトの終点など、登山者による利用が多い施設や地点。

3-3 野営指定地／休憩ポイント／分岐

公園事業施設以外の場所で、野営指定地や登山者がよく休憩ポイントとして使用する場所。

3-4 大雪山グレード（利用体験ランクの低い数字に考慮）

観光利用者向け探勝ルートのグレード１や軽登山ルートのグレード２などは、グレードの高い登山道より、一定程度整った利用体験環境となるよう考慮する。

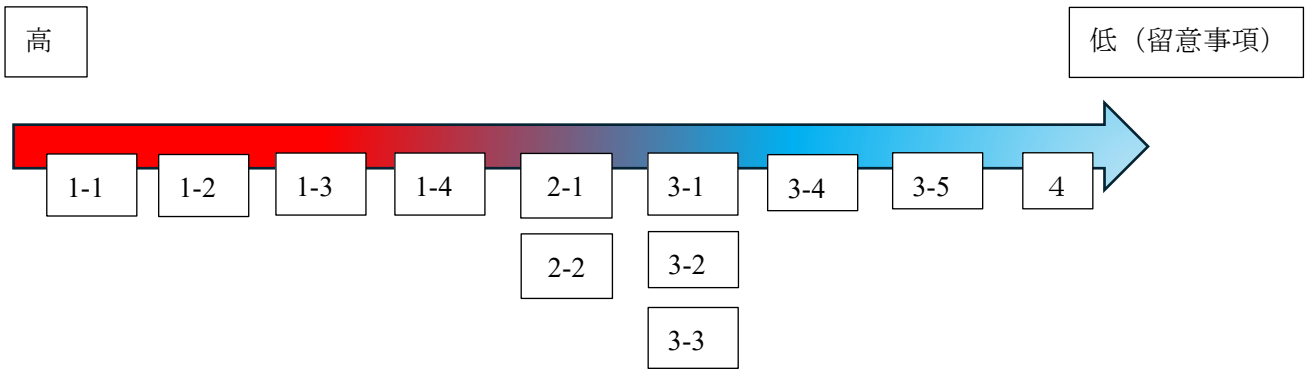
3-5 利用者数を考慮

登山者数や避難小屋等の施設利用者数が多い場所への配置は少ない場所より必要性が高く、一方で、トイレ配置により利用環境が整うことで登山者数が過剰になる懸念がある場所への配置は慎重に検討する。

４． 携帯トイレの入手・回収

登山口や携帯トイレブース周辺等にて携帯トイレを入手できること及び回収ボックス設置等の回収体制が整っていること。また、新たに携帯トイレブースを設置する場合には入手・回収のしやすさも考慮する。

■優先順位付け



■配慮事項に基づく個別検討課題の整理

大雪山山岳域での山岳トイレの配置に関する現在の主要個別課題について、上で設定した配慮すべき項目とその優先順位付けに沿って、次の通り整理しておくこととしたい。

●黒岳７合目付近

・登山客から一般観光客まで、年間を通して多くの利用が見られる（黒岳登山口 R6.6～10 月入山者数約 40,000 人）。
・最寄りのトイレは黒岳５合目ロープウェイ駅舎内、山頂方面では黒岳石室。
・項目３（位置関係や利用状況）の各項目を考慮すればトイレ又は携帯トイレブースの必要度は高いが、設置した場合の利用人数や頻度は低くないことが想定され、処理方式の選定や適切な使用方法の確保などを始め､項目２が大きな課題になると思われる。

●沼ノ原大沼

・クチャンベツ登山口から登り３時間弱・下り約２時間の位置にあるが、縦走線沿いは石狩連峰・五色ヶ原方向ともにトイレ施設はない。
・野営指定地としての宿泊利用があり、項目 3-3 に該当。一方、利用者数は少ないため項目 3-4 や 3-5 への適合度は低い。
・携帯トイレブース等の設置を検討する場合、沼畔となるため設置地点や管理方法といった項目２への適合が課題となる。また、項目 1-1 及び 1-4 による、大沼や周辺の景観及び自然環境の保全を主目的とした場合の必要性について評価するためのデータが今後必要と考えられる。

●旭岳周辺

・姿見の池を拠点とする周回コース（旭岳～お鉢～中岳温泉）、あるいは縦走など多くの登山利用が見られる（R6 入山者数：姿見の池・旭岳方面約 31,000 人、同・裾合平方面約 11,000 人）
・既存トイレは姿見の池園地内以外は、上記周回コース上にはない。
・R 元～６年の間に、旭岳 9 合目、裏旭野営指定地、中岳温泉、裾合分岐で効果検証を目的とした仮設トイレブース設置を環境省で実施。
・項目 3-3～3-5 を考慮するとトイレ又は携帯トイレブースの必要性は認められる一方、項目１の各項や項目２を優先して要考慮。